

事業報告書

令和2年（2020）年度



あったかいが
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

2020 年度事業報告

全世界を混乱の中に巻き込んだ「新型コロナウイルス感染症」によって、アドベンチスト福祉会の事業は大きな影響を受けました。我々は人間のいのち（人生）に寄り添うとして、「人はなぜ生きるのか？」という究極的な課題に毎日向き合っていますが、この感染症の脅威と闘う中で、改めて人間は独りで生きる存在ではなく関係性の中で生きる者となることを体験しています。

アドベンチスト福祉会が掲げる目標は、個人的なニーズが満たされた対象者が現存する苦難から開放されて、真の平和（シャローム）を体験して頂くことです。経営者会は職員に対して、この使命を自らの個人的な体験と共に対象者と共有し、喜びを分かち合うことを目指してほしいと願い、祈り、そして関わって参りました。

先に挙げたコロナ禍の影響を受けて多くの人々が関係性に傷つき、孤立し、孤独の中で生活を強いられる現実を、我々は不覚にも予想することができませんでした。しかしこのことが現実の問題として起こっているいま、アドベンチスト福祉会の使命と役割を改めて問い直す必要を感じています。

各施設、事業所からの報告を受けて、経営者会はその課題が経営問題を中心に「人」にあることを再認識します。「福祉は人に始まり、人に終わる」と先達から教えられました。人は孤立して生きるのではなく、関係性の中に生きることを再確認し、人間の理解と限界を超えた計画をもって我々に祝福をもたらそうとされる聖書の神に頼り、預かったご利用者の“いのち”と職員の“いのち”に誠実に向かうことを誓い、来年度に引き継ぎたいと思います。

結びに、アドベンチスト福祉会が福祉を实践する上で最も大切な「謙虚な姿勢」で個人と地域社会に向き合う決意を表明する意味で、当法人の理念の根拠になっている聖書からひとつの言葉をご紹介します報告と致します。

「神のなされることは皆その時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終わりまで見きわめることはできない。」（聖書）

アドベンチスト福祉会
理事長 村本英邦

事業報告書

令和2年（2020）年度



あったかいが
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

シャローム横浜

目次

令和2年度アドベンチスト福祉会

シャローム横浜 事業報告

法人本部	1
施設長	2
相談・企画課	3
ケアサービス	
◇特別介護棟（3階）	6
◇一般虚弱棟（4階）	8
医務室	10
施設サービスデータ	11
栄養課（食事サービス）	15
在宅サービス	
◇通所介護（一般）	18
◇認知症対応型通所介護（ひまわり）	19
◇ケアマネジメント シャローム横浜	20
事務局	21
受託事業	
◇横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業	25
◇四季の森小学校放課後キッズクラブ	26

2020年度 法人本部事業報告

室長 坂本 晋一

2020年7月に法人企画戦略室部門を開設し、アドベンチスト福祉会の理念「いのちを敬い いのちを愛し いのちに仕える」を基に、キリスト教福祉の使命と役割を実践していくため強い情熱をもち、将来に残せる持続可能な事業を計画し、実践していく。計画では中長期的（2029年度）なものとなっているので、2020年度末までの事業報告となる。

1. シャローム横浜周辺地域での、持続可能な事業展開

- シャローム横浜敷地周辺での場所の確認と検討した。
法人の中心となるシャローム横浜周辺に新たな事業展開することは、将来に向けても魅力的なことで、土地の確認と取得するための検討を行った。また、2027年予定の花と緑の博覧会開催に向けて、周辺エリアは道路等環境も含め大規模な整備が進むことが見込まれ、隣の横浜三育小学校等とともに情報収集（説明会参加等）に努めた。

2. 主に沖縄事業を含む市外での、持続可能な事業展開

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、特別な活動はなし。

3. 外国人介護人材を含む、人材安定確保への取り組み

- EPA等による新たな外国人介護職雇用はなかった。また、1月にEPA介護福祉士候補生3名が介護福祉士国家試験に挑み、2名の合格者を得た。1名は次年度再チャレンジする。現在6名中4名のEPA介護福祉士と2名の介護福祉士候補生が在籍している。また、3月より、特定技能（介護）での雇用に向けて取り組み始めた。

4. チャプレンとしての取り組み

- 朝礼はコロナ対策対応を図りつつ、2月より再開した。これにより、日毎に法人理念を確認し、共に力を合わせてこのコロナ禍を乗り越えていく気持ちを新たにしていける機会にしている。
- ボランティア活動が、殆ど停止している状態であるが（裁縫、ガーデニングボランティアは除く）、今後どのようにしていくか、どのような希望があるかを知る為にボランティア委員会を通してボランティア登録者（約150名）にアンケートをとる。
- キリスト教福祉施設として、家族で最後のお別れ会を希望している遺族には、納棺式を含めた最後の告別式を5件行った。また法人理念の根拠となっている聖書について、学びを希望している職員（2名）に勉強会を行っている。

2020年度 シャローム横浜事業報告

施設長 高原 信夫

シャローム横浜は「寄り添うケアの実践」をサービスの基本姿勢として掲げながら「未来に向けた一致」を基本方針として3年目が経過しました。今年度はいままでは違い、新型コロナウイルス感染症というこれまで経験したことがない対応に終始してしまい、あらゆる面で非常に厳しい一年となりました。前年度の12月末からインフルエンザが流行し、そのまま新型コロナウイルス感染症が流行したことで、面会制限や地域の皆様の出入り禁止など、ご利用者やご家族、地域の皆様に多大な影響が出てまいりました。また、発症当初はどのようなプロセスで感染するのか、対策はどのように行うべきかが解明されていなかったため、情報収集しながら感染症対策委員会を中心に繰り返し話し合い、その時点で最良と思われる対策を行ってまいりました。しかし、職員2名の感染とご利用者1名が入院中に感染するなど、未知のウイルスに対して、私たちは弱い存在であることを改めて思い知らされました。しかし、人から人へは感染することはなく、その職員のみでとどめることができたのは、多くの職員の努力と協力体制があったからこそと評価しております。また、感染に対して協力病院や地域の方々、ご家族への報告の際に多くの皆様から励ましの言葉を頂けたことは、ひとえに日頃の関係性の賜物であり、感謝しております。

このような状況の中で、基本方針である「未来に向けた一致（新たなチャレンジに向けた合意）」に向けて、各部署が様々な形で取り組んでまいりました。特に、新型コロナウイルス感染症により今までのやり方ができなくなった面会については、予約制で対応しているために月当たりの面会者数が1/4に減りましたが、対策をとりながらパネル越し面会を継続しました。また、フロアでの面会方法を同時に模索するなど、できないとあきらめるのではなく、できる事を前向きに検討する取り組みが見られました。また、認知症デイサービスひまわりも色々と模索しながら人員配置や動き方を見直し、持続可能な体制づくりを作り上げることが出来たこと、研修方法を見直したことで介護現場の研修参加率が向上したこと、特養とひまわりに事務局や看護職員が必要な時間にフォローに入る体制が構築出来た事や特養医務室の夜間オンコールを業務委託できたことなど、多くのことが未来に向けた希望であることを確信しています。

しかし、同時に感染対策の影響で稼働率が特養・ショート合わせて94.22%となり、感染対策に多くのコストが発生するなど、経営面では非常に厳しい現実を突き付けられました。また、昨年から引き続き接遇やヒアリング・事故数の増加、ケアが業務中心になりがちであること等のケアの質が問われているなど、様々な問題に直面しております。

引き続き、法人理念の根拠である聖書に立ち返り、いのちをかけたがない存在として受け入れる「キリストに倣う」姿勢を福祉実践の根拠として、全てのいのちに対して寄り添い・支え合い・助け合うことで、持続可能な体制づくりをすすめて参りたいと心より願っております。

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名
相談・企画課	杉山 肇
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナウイルス感染症の影響があり、高稼働率の確保やご家族との関係を深めること、地域活動などが一切出来ない状況であった。 2 特養入所者数25名（前年比6名減）、退所者数25名（前年比1名増）、延べ入院者数722名（前年比198名増）と入院者数の増加と感染症の影響が稼働率に大きく影響した要因となった。
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 施設ケアマネジャーやケアサービス課長と一緒にアセスメントを行い円滑に入所出来る様努めた。しかし、新型コロナウイルス感染症に伴う第一次緊急事態宣言により本入所を一時的にストップしたこと、入所手続きを進めるにあたり感染症に考慮した対応をせねばならず多くの時間を要したこと、また感染症の対応により8月は89.7%と非常に低い稼働率となってしまい、目標稼働率97%を達成するには厳しい年度であった。 2 感染症対策のため、地域貢献活動やボランティアの方々の協力を得て生活環境を整えることは出来なかった。
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特養91.63%、短期122.68%、合計稼働率が94.22%、目標達成する事が出来なかった。 2 特養待機者リストを3日以内に作成し、常時待機者3名を確保できた。 3 外部研修及び近隣施設、近隣医療機関との連携は実施出来なかった。
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 複数名でアセスメントを実施した。 2 自治会・老人会・地域ケアプラザ等の交流や地域活動への参加や支援、ボランティアの方々が活動しやすい環境作りは実施出来なかった。
V	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 要望や苦情、困難事例から法律の理解や対応方法について理解を深めスキルを上げた。 2 嚙下困難者ケアについて、生活相談員として具体的な取り組みを立案し支援することは出来なかった。 3 感染症対策の実践と評価を行い、感染症対策委員会の内容を不定期であったが、手紙やSNSを用いて身元保証人や地域の方々にお届けした。
VI	<p>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本入所、短期入所生活介護相談員がお互いの業務を行えるよう、不定期であったが相談企画課ミーティングを実施した。 2 近隣医療機関（急性期・療養型・診療所・精神科）とのネットワークについて、関係性を構築する取組が出来なかった。 3 看取り体制と対応の見直しを行い、各種説明書を作成することで伝えるべき内容を明確にした。 4 事例や障害に関する研修を受けることで、障害者への理解を深めた。

VII 残された課題・評価・反省・その他の特記事項

- 1 平成31年度からの案件である重篤事故、困難ケースへの対応等多くの時間を要した。事故や困難ケース対応については、根拠を持って対応する必要があり、弁護士からの意見や助言を元に対応することが出来た。特に、各種契約書の見直しとなるきっかけとなった。
- 2 感染症のため、全て計画が実施出来ない状況であったが、感染症と共生するためにICTの活用やご家族との関わり方を考えさせられる1年であった。令和3年度に向けて、感染症に考慮した形で各種行事が出来ないか検討していく。また、近隣医療機関や近隣施設との連携方法について検討していく。
- 3 各種行事中止や面会制限がある中で、令和3年1月より相談企画課にケアマネジメントグループを設置し、施設ケアマネジャーと機能訓練指導員が所属となった。各専門職が、ご利用者およびご家族と特養を繋ぐ架け橋として支援出来る様、令和3年度運営していく。

【表1】ショートステイ新規利用相談（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18	12	15	18	15	20	20	12	10	18	15	18	191

【表2】特養入所相談（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12	13	10	27	18	13	12	9	11	17	12	15	169

【表3】特養待機者面接（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	0	1	3	5	6	7	0	2	1	2	3	31

【表4】入退所の状況

(1) 年度中に入所又は退所した者の数(人)

R2.4.1在所者数	入所者数	退所者数	R3.3.31在所者数
106	25	25	106

(2) 年度中に入所した者の入所時における要介護度別内訳(人)

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
1	0	3	11	10	25

(3) 年度中に入所した者の生活状況及び入所者数(人)

生活状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	3
シャロームショートステイ	0	1	1	0	1	2	0	1	3	0	1	0	10
認知症高齢者グループホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
介護老人保健施設	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	2	5
病院	0	1	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	5
有料老人ホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
他法人ショートステイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護療養型医療施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入所者数	0	2	1	2	2	4	3	1	5	1	1	3	25

(4) 年度中に退所した者の理由及び退所者数(人)

退所理由	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病院で死亡者数	0	1	1	1	1	1	0	0	0	2	0	1	8
施設看取り者数	1	1	2	1	2	1	2	0	1	1	0	0	12
長期入院退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転院退所	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	4
自宅へ退所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
退所者数	2	2	3	4	3	2	3	0	1	4	0	1	25

【表5】在籍者の状況について(令和2年3月31日現在)

(1) 年齢構成(歳)

平均年齢	87.41	男性	85.04	女性	88.06
------	-------	----	-------	----	-------

年齢	~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~	合計
男性	1	1	0	6	1	4	6	4	23
女性	2	0	3	4	17	18	22	17	83
計	3	1	3	10	18	22	28	21	106

(2) 在籍者の要介護度別内訳(人)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男性	1	2	4	9	7	23
女性	4	3	14	31	31	83

(3) 入院者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
入院者数	4	3	1	7	4	1	1	4	3	2	3	4	37	3.1
延べ入院者数	5	5	2	8	6	4	1	5	6	6	4	5	57	4.8
延べ入院日数	60	69	37	93	79	30	31	76	81	77	21	68	722	60.2

【表6】緊急ショートステイ受入件数(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	0	0	1	0	1	2	1	2	0	0	7

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ケアサービス課 特別介護棟	山田 康裕・山中 重男
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法人理念の具体化に向けた取り組みとして挨拶強化月間など新たな取り組みを実践し、職員1人1人が法人理念を意識し業務にあたるように努めた。また朝礼への参加を目指したが、感染症対策と人員不足のために参加することができなかった。 2 感染症対策（新型コロナウイルス）を想定しリスクマネジメントに努めた。また職員1名にPCR陽性者が発生したため、職員数が確保できない事態となった。ケアサービス課だけではなく、栄養課・医務室とも連携して介護サービスの提供に努めた。 3 感染症対策を軸に緊急時の対応方法を検討し実施した。なお、様々な事態を想定することにより、職員数確保ができなくなる恐れがある災害等発生時の具体的対応を検討した。 4 研修方法の見直しや外部研修への参加を促し、人材の育成に努めた。
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 フロア会議はコロナ禍により密や職員のクラスターを避けるため実施せず。ご利用者へのケアについては個別に適宜話し合いを行ったが、認知症周辺症状への対応となってしまう、行動の原因となる心理面に対するアプローチに至らなかったためケアの向上には繋がらなかった。 2 感染症対策を優先してフロア間のご利用者・職員の動きを制限したため、有効な配置には至らなかった。 3 排泄時間や離臥床時間の見直しを行うことで、現状に沿ったケアを提供した。 4 新たにeラーニングやオンライン研修を活用し、多くの職員が研修に参加できた。
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特養稼働率94.22%。感染症の影響を大きく受けた一年であった。 2 他職種との連携により、摂取動作や摂取時の姿勢を適時検討した。昨年度、誤嚥性肺炎での入院者は4名となった。 3 感染症対策を優先し、回想法（グループ・個人・ミニ）は実施できなかった。 4 eラーニングを活用した勉強会を実施したが、具体的な効果は認められなかった。
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コロナ禍と人員の不足により研修を実施出来なかった。 2 機能訓練指導員と連携して一人ひとりの移乗方法を確立することで、痣などの皮膚症状軽減に繋がった。 3 ご利用者に対して個別にテーブル拭きやエプロン干し等のできる事を実践していただき、尊厳や自尊心の維持に努めた。トイレ介助時もお自分で拭ける方には紙をお渡しするなどの取り組みを行った。
V	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 トランスボード、リフトの活用、トランス方法の確立により双方の負担軽減に繋がった。 2 看取りについては、急変や看取り期が短い等の理由からその人らしい最期を迎えられる支援には至らなかった。 3 職員の能力に合わせた配置転換や出勤時間の調整、環境作りを行ったが、離職者ゼロには至らなかった。

VI	<p>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 認知症実践者研修はコロナ禍により1名のみ参加となり、フロア職員へのフィードバックには至らなかった。しかし、現場実習を特別介護棟で行うことで、認知症に対する考え方を職員間で共有することが出来た。 2 個別音楽療法と看取り期へのアプローチはコロナ禍の為に実施できなかった。
VII	<p>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 認知症の方に対する関わり方や接し方は継続した課題である。来年度も認知症実践者研修に参加することで得られる認知症の方への関わり方や対応を適切なケアの実施に繋げたい。 2 フロアでの情報共有やカンファレンス実施の方法が今後の課題である。様々な方法を検討したい。 3 ご利用者一人ひとりを大切にしたいとの想いを伝える事を目的に、職員面接を繰り返し行う。そして、日々のケアの問題点・疑問点などについても確認することで、フロア全体のケア向上を目指したい。

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ケアサービス課 一般虚弱棟	山田 康裕・宮沼 孝志
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法人理念の具体化に向けた取り組みとして挨拶強化月間など新たな取り組みを実践し、職員1人1人が法人理念を意識して業務にあたるように努めた。また朝礼への参加を目指したが、感染症対策のために人手をとられてしまい、実践することができなかった。 2 感染症対策（新型コロナウイルス）を想定しリスクマネジメントに努めた。また職員数が確保できない事態が発生した際はケアサービス課だけでなく、栄養課・医務室とも連携して介護サービスの提供に努めた。 3 感染症対策を軸に緊急時の対応方法を検討し実施した。更なる感染症対策を検討することにより、感染症以外のリスクに備えるBCPの制定に努めた。 4 研修方法の見直しや外部研修への参加を促し、人材の育成に努めた。
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会議にて話し合う事はできなかったが、ケース担当がご利用者に直接意見を伺い、リハビリ開始や自身がやりたいことを自己決定に基づき援助した。しかし、少人数での関わりが中心となったため、フロア全体で共有できなかった。 2 感染症対策を優先してフロア間のご利用者・職員の動きを制限したため、有効な配置には至らなかった。 3 重介護の負担軽減についてはリフトやトランスボードを活用したトランスを実施した。職員不足の際には入浴日を週4日から週5日にして1日の負担を軽減することで、ご利用者の入浴を週2回実施した。 4 新たにeラーニングやオンライン研修を活用し、多くの職員が研修に参加できた。
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特養稼働率94.22%。感染症の影響を大きく受けた一年であった。 2 嚥下困難者の支援では、事例に対して改善に向けた対応方法を医務室や介護職員と適時検討した。 3 感染症対策を優先し、回想法（グループ・個人・ミニ）は実施できなかった。 4 eラーニングを活用した勉強会を実施したが、具体的な効果は実感できなかった。
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ご利用者のADL変化に対して排泄介助や臥床時間を設ける等の変更を行い、ご利用者に負担の少ないケアを提供できるように努めた。 2 感染症対策の関係で歯科衛生士が来所できない時期もあったが、今までの助言を元に毎食時の口腔ケアを実践した。 3 リフトでの移乗は積極的に実施できたが、トランスボードに関しては使用する際の手間（ベッド高低の調整やベッド移動）がかかるため、利用率が上がらなかった。

V	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日々の介助方法に関しては安全な食事の提供方法・移乗介助はリフトトランスの徹底、トランスボード指定者には毎回使用しての介助を実施した。立位が不安定だがトイレ介助を提供している方には職員2名で対応を行い双方に危険がない介助を実施した。しかしヒヤリハット・事故報告の件数は大幅には減少せず、その都度カンファレンスを開催し発生原因・予防対策を検討し再発予防に努めた。 2 感染対応の研修を役職者主体でフロア職員に行い、感染予防としてフェイスガードの着用や出勤時・退勤時の検温実施を徹底した。 3 音楽療法への参加によりご利用者の笑顔や発語、歌うなどの反応が見られていた為、可能な限り参加を継続していきたい。しかし、音楽療法士から得た情報を認知症ケアに活かす事は出来なかった。 4 機能訓練指導員と介護職員のリハビリ係との連携はうまくいかなかった。出来る限りの持ち上げない介護は継続できた。 5 感染症により職員不足になった際には業務量を必要最低限まで減らす事や他部署への支援要請を視野に入れて検討した。 6 ショートステイご利用者の看取りケアを行い、多様化してきているニーズに対応した。
VI	<p>業務の新たな試み（新たなニーズへの対応・開発）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ご利用者同士の相性を考慮して食事席を考え、個人の希望された時間での排泄介助の提供、離床時間と臥床時間の提供を行った。自室での食事を希望された方に関しても本人との話し合いを経て、本人の意向に沿った対応をした。業務の再構築は行わなかったが、支援としてはその都度ご利用者からの要望を聞き職員と本人と話し合いをしてより良い個別での支援を提供出来るように努めた。 2 感染対策により、直接声を出さない対応やアクリル板使用等の弊害があり、ターミナルケア対象者への音楽療法は実施できなかった。 3 違う観点での対応方法の検討はできなかった。従来から使用しているブレーデンスケールの活用、多職種会議による対応方法の検討（CP10ゼリー活用、エアーマットの活用等）等で年間を通して対応した。
VII	<p>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 感染対策の影響で室内でのレクリエーションは実施できたが、外出はできなかった。今後は感染対策に十分配慮した余暇活動を計画し、実行する。 2 フロアの係業務の範囲が不明瞭であるため、業務内容を明確化して機能できる体制を構築したい。 3 ご利用者の身体状況に応じた福祉用具の活用をより積極的に実施し、ご利用者にとって安楽な持ち上げない介護を実現したい。また、職員配置や業務内容、ご利用者の居室変更等の環境面の見直しも他部署との連携により実現していきたい。

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名
医務室	中村 牧子
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設看取り13名（3F4名・4F9名）病院死亡9名、転院退所4名。 感染症の発症：① インフルエンザ：ご利用者 0名、職員 0名。 ② ノロウイルス：発生なし。 ③ 新型コロナ；ご利用者 入院中に1名、職員2名。 新型コロナ対策がインフルエンザ等の感染症予防にも効果があったと思われる。 オンコール対応260件、その内施設看取り対応は6件だった。（表9） 夜間オンコールは平均21.6回/月だが、ドクターメイトを導入した12月～3月の平均は16.5回/月となった。 嚥下困難者のケアの実践 機能訓練指導員による勉強会2件、嚥下リハビリ404件（表5）
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 看取り件数は13件、その都度看取りカンファレンスを多職種で行うことにより個別対応の改善につなげる事が出来た。また、職員のグリーフケアに繋げる事が出来た。 感染症予防：新型コロナ対策を各方面からの情報収集と行政からの指導をもとに試行錯誤しながら行ってきた。また、スタンダードプリコーションを徹底したことで成果が得られた。 多職種協働により、誤嚥性肺炎の予防につなげることができた。
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> 外部研修：4件の研修に5名参加。（表7）新型コロナの流行により外部研修の参加は困難であった。内部研修5回（表8） 受診件数を25件/月以下目指したが、結果は平均27.9件/月であった。12月に試験的にドクターメイトを開始し、1月より本格導入したが、12～3月の受診は平均27件/月となった。
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> ご家族対象の看取りケア研修は新型コロナ流行の為、開催を断念した。面会も制限している中でも看取り期の面会については相談員、ケアワーカーと情報を共有し、安心して最期を迎えられるよう配慮した。その際にご家族と関わり、最期の経過についてお伝えすることでご家族の気持ちに寄り添ってケアを行うことができた。 ケアワーカー対象の緊急時対応の研修は3回に分けて28名に実施した。また、ドクターメイトの研修を活用し、緊急時対応の勉強会を開催した。 嚥下評価法を取り入れ、定期的に嚥下リハビリの見直しを行う予定であったが、感染予防の観点から外部から理学療法士の参加が困難であったため、見直しは進まなかった。今年度に引き続き嚥下リハビリについて定期的な見直しができるように努める。 ご利用者の健康診断結果を日々のケアに生かすことで健康管理の向上につなげることができた。また、看取り同意書を頂いているご利用者の体調変化の際に、再度主治医との面談の機会を持つことで、現状に合わせたご利用者本位の看取りにつなげることができた。

V	業務の強化・向上 （強化・向上したこと） <ol style="list-style-type: none"> 感染症予防の研修、今年度は新型コロナの対応で精一杯であったがスタンダードプリコーション等の他の感染症にも応用がきく基本的なテクニックや知識について職員全員で学ぶ一年であった。 機能訓練指導員、音楽療法士と協働して集団リハビリを計画していたが、感染予防の観点から集団での企画が困難となった。今年度は感染予防に配慮した形で個別及び小集団での音楽リハビリを行った。 抱えない介護に向けた福祉用具の検討と定着のための研修について、大きな研修はできなかったが、福祉用具の使い方や負担の少ない動作を学ぶ機会を持った。リフトの使い方は定着してきている。 他部門ではないが、かかりつけ薬局を変更することにより、複数科から出された処方薬の合体作業を依頼することができ、誤薬防止につなげることができた。また、作業の効率化を図ることが出来た事で、ご利用者に関わる時間を増やすことができた。
VI	業務の新たな試み （昨年度より開始した事業・業務・対応など） <ol style="list-style-type: none"> 終末期の意思決定の支援としてご家族が理解しやすい資料を作成し、活用した。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 <ol style="list-style-type: none"> 昨年からの課題であった介護職員の「喀痰吸引等研修」への参加については1名参加して当施設で実習を終える事が出来た。来年度においては当施設にて喀痰吸引等研修を予定している。今後は、介護職と胃ろう等のケアについての業務体制を検討していく。 ここ数年の懸案事項であったオンコール体制については、ドクターメイトを導入することで外部委託ができ、業務改善することが出来た。また、日中も医療相談サービスを利用できるようになったことで、ご利用者にとってはより高度な判断のもとにケアを受けられるようになった。また、職員の精神的負担の軽減にもつながっている。今後は上手く活用することで、受診件数の削減につなげていきたい。 新型コロナの流行は来年度も終息の見込みができない為、引き続きコロナ対策を感染症予防の基本として対応していく。

表1【医師の診察】

〈往診〉

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	来所回数	4	3	5	3	3	4	4	3	4	4	3	5	45
	診察人数	57	64	76	49	55	60	79	46	66	74	54	86	766
精神科	来所回数	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	23
	診察人数	20	20	28	15	29	32	31	32	35	31	33	33	339
歯科	来所回数	3	0	3	2	3	4	4	3	4	4	3	3	36
	診察人数	23	0	25	13	19	31	27	28	30	25	22	23	266
皮膚科	来所回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	診察人数	14	15	18	10	10	15	16	17	15	15	14	18	177

〈嘱託医へFAX(報告・相談)人数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
中希望が丘診療所	25	9	14	24	13	15	14	15	3	6	9	11	158
神奈川病院	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
浅井皮膚科クリニック	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	4

表2.【外来受診・健康診断】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	7	0	9	12	10	3	9	5	5	4	6	5	75
眼科	0	0	2	0	1	1	0	0	2	1	0	4	11
皮膚科	3	4	12	9	8	8	6	7	4	5	4	2	72
整形外科	0	0	5	5	4	3	4	5	0	2	5	1	34
泌尿器科	2	6	6	2	1	2	2	1	2	5	1	3	33
外科	0	0	2	0	1	3	1	2	3	3	2	2	19
救急外来	0	2	1	3	3	0	0	5	3	1	3	1	22
脳外科	0	0	0	0	2	4	3	2	0	0	3	0	14
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形成外科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
精神科	2	1	3	1	0	1	3	2	0	0	1	1	15
歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻科	1	0	1	1	1	0	2	2	5	2	4	7	26
内視鏡	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3	0	1	7
検査	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	4
口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
輸血	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	15	13	41	39	31	26	31	31	24	26	30	28	335

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急搬送本入	1	1	1	3	1	1	0	3	1	1	1	3	17
救急搬送ss	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2

	7月	9月
健康診断	51	43

入院時病名	肺炎 (うち誤 嚥性肺 炎含)	胆のう炎 胆管炎 総胆管 結石	骨折	尿路 感染 尿管 結石	胃ろう 造設術	脳梗塞	心不全	硬膜下 血種 クモ膜下 出血	白内障 手術	痰の 増加	摂食 困難	腸炎 腸閉塞	形成
人数	8	5	3	5	1	1	1	0	1	0	0	3	1
入院時病名	低血糖	インフル エンザ	脱水	炎症 高値	検査	ショック 状態	吐血	薬調整	腫瘍				
人数	0	0	0	0	4	0	2	1	1				

表3.【医療処置】月末時点(入院者含まず)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
胃ろう	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	5
ストマ	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	2	2
在宅酸素	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
膀胱留置カテーテル	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
常時吸引	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2
褥瘡(Ⅱ度以上)	3	4	3	3	3	3	3	3	6	4	3	3
吸入	6	6	5	4	4	4	4	4	4	3	3	3
合計	21	22	20	19	19	19	18	19	22	19	18	19

(SS含まず)

表4.【歯科衛生士による口腔ケア】

口腔ケア	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来所回数	3	0	3	3	3	3	4	4	4	3	4	3	37
実施人数	58	0	62	46	50	55	68	72	67	46	60	51	635

表5.【リハビリ】

〈PTによるリハビリ〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
来所回数	2	0	2	3	3	4	4	4	4	0	0
指導人数	11	0	9	14	17	23	20	21	19	0	0

〈機能訓練指導員による嚥下リハビリ〉

対象者の実人数 3F 6名、4F 12名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
実施数	0	57	48	45	52	51	47	21	22	30	10

〈機能訓練指導員によるリハビリ〉

対象者の実人数 3F 5名、4F 7名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
実施数	106	139	116	134	156	151	174	132	119	131	85

表6.【予防接種】

肺炎球菌予防接種

	①ニューモバックス	②プレベナー
3F	0	2
4F	0	1
合計	0	3

ご利用者インフルエンザ予防接種

3F	47
4F	53
合計	100

注:①市の助成あり ②助成なし自費

表7.【外部研修参加】

	日時	研修名	参加者	場所	主催
1	9月15日 9月30日 10月8日	介護保険施設等看護 研修Ⅱ(中堅レベル)	小林	神奈川県 ナースセンター研修室	神奈川県看護協会
2	10月18日	医療的ケア教員講習会	中村	グランベル横浜ビル9F 会議室	しかくの学校 ホットライン
3	12月18日	新型コロナウイルス 感染症対応力向上研修	山田 中村	瀬谷公会堂	横浜市医療局医療政策課
4	3月6日 3月7日	高齢者のエンドオブ ライフケアを支える 包括的研修プログラム	林	神奈川県 ナースセンター研修室	神奈川県看護協会

表8.【他部署への研修実施】

	日時	講師	研修内容	対象	場所	参加人数
1	4月6日	品末	緊急時対応	特養職員	会議室	7名
2	4月21日から 5月27日まで	品末	新型コロナウイルス 感染症の予防	特養介護職員 特養看護職員 ケアハウス職員	3Fケアハウス側 4F西デイコーナー ケアハウス	46名
3	4月20日から 5月24日まで	中村	緊急時対応	特養介護職員 特養看護職員 ケアハウス職員	4F西デイコーナー 医務室	18名
4	11月27日から 2月27日まで	林 中村	喀痰吸引等実地研修	特養介護職員	特養4F居室	1名
5	3月8日	中村	緊急時対応	特養介護職員	特養4Fワーカー室	3名

表9【夜間オンコール】18:30～翌朝7:30

月別のオンコール件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10	21	25	29	30	29	30	20	18	12	21	15	260

(12月よりドクターメイト開始)

症状別の件数・救急搬送数

SPO2 低下	呼吸	血圧	けい れん	麻痺	嘔吐	下痢	高熱	意識 レベル 低下	呼吸 停止 (看取り)	転倒	頭痛	出血	腹痛	胸痛	その他	救急 搬送
14	14	24	3	0	23	1	95	3	6	51	1	2	1	1	4	9

(1人に複数症状ある場合あり)

ドクターメイトへ日中の医療相談件数

	12月	1月	2月	3月
皮膚	7	1	1	0
その他	1	0	0	0

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名														
栄養課	小寺 秀偉														
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 今年度はHACCP(危険度分析衛生管理表)を取り入れることによって、安全で健康をサポートする食事を提供した。 2 食事サービスは、コロナの影響から小学校が一時休校及び地域交流会の中止等、通常の配食以外の数値は伸び悩んだ。配食では横浜市の助成申請が厳しくなったため、助成の利用は減少したものの利用者数は伸びた。 														
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 栄養課職員が全員参加する厨房内での調理研修会を開く事が困難だった為、少人数の職員がメニュー会議を開き、安価で質の良い食材を献立に取り入れた。 2 高齢者が多く住む地域にチラシを配布し、食事サービスの存在をアピールした。配食では特に高齢世帯及び独居の方の安否確認を厳重に行い、関係者との連絡を密にすることで、安心して過ごせるよう環境整備を行った。小学校給食では食数が減少傾向にあったが、コロナ禍において生徒にアピールする機会を得ることが出来なかった。 														
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>食事サービス</td> <td>配食実績</td> <td>平均食数</td> <td>103.3食</td> <td>目標達成率</td> <td>103.3%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小学校</td> <td>平均食数</td> <td>19.3食</td> <td>目標達成率</td> <td>48.3%</td> <td></td> </tr> </table>	1	食事サービス	配食実績	平均食数	103.3食	目標達成率	103.3%		小学校	平均食数	19.3食	目標達成率	48.3%	
1	食事サービス	配食実績	平均食数	103.3食	目標達成率	103.3%									
	小学校	平均食数	19.3食	目標達成率	48.3%										
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 非常食取り扱いマニュアルを作成し、栄養課職員が対応出来るように研修を実施して取り扱いが出来るようにしたが、他部門への研修は実施出来なかった。 2 ミキサー食の栄養価を高める為に様々なメーカーの商品を検討したが、今年度取り入れるまでには至らなかった。 3 献立作成時に職員間で情報共有してメニューの改善に取り組んだところ、ご利用者から「以前より献立が良くなった」とのアンケート結果を得ることができた。また、小学校給食でも献立を見直して食数増加を目指したが、至らなかった。 														
V	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 調理担当者が変わっても、料理の味付けが統一できる様に安価で味付けが良いソース類を取り入れ、味付けにムラが無いようにした。 2 配達員に「安否確認の重要性」を促し、意識改革の強化を図った。そのことにより利用者不在を軽視せず安否確認の意識を高めることが出来た。 														
VI	<p>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域向けにケータリングサービスを検討したが、感染症拡大のために開催出来なかった。 2 小学校に全校給食への移行について繰り返し確認したが、直近での移行の意志が無かったため、最終的には今年度で小学校への配食は終了となった。 3 令和2年度より利用者へ誕生日にカードと粗品を贈呈した。また日々のお弁当の帯にも季節感を出し、受け取った時から日常生活にささやかな楽しみを提供すると共に、コミュニケーションの一環として喜ばれた。 														

VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項
	1 今年度は、コロナの感染リスクが高かったが、栄養課主催の行事を数回行う事が出来た。来年度からは感染対策を万全にした上で別の方法で月一度、出来る様にする。
	2 コロナ禍において配達方法にご利用者からも異論があり。更なる感染拡大防止対策を検討していきたい。

表1【栄養ケア・マネジメント】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
高リスク	6	7	11	9	6	8
中リスク	69	60	61	61	62	63
低リスク	29	36	30	32	31	28
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高リスク	3	4	7	6	7	8
中リスク	69	71	70	69	70	67
低リスク	28	27	26	30	27	29

表2【行事食実施記録】

● イベント食

敬老祝い膳 (9月20日)	赤飯、清汁、ぶりの照り焼き、天ぷら（海老、イカ、さつま芋、しし唐） 野菜炊き合わせ（里芋、人参、牛蒡、筍、絹さや）、秋の白和え、 寿饅頭
------------------	--

クリスマス ディナー (12月25日)	パン(クロワッサン、ホワイトブレッド)、グリーンピースのポタージュ、 ビーフシチュー（牛肉、人参、じゃが芋、いんげん）、海老、アボガド、サーモン サラダ、魚の香草焼き（肉禁） レアチョコレートケーキ、フリーカットチョコケーキ、ワイン（ノンアルコール）
---------------------------	--

正月祝い膳 (1月1日)	雑煮（鶏肉、ほうれん草、花形人参）、海老の姿煮、伊達巻、 栗きんとん、紅白なます、黒豆、紅白かまぼこ、数の子、鰯の照り焼き、 チキンロール、合鴨ロース焼き 煮物（里芋、京人参、筍、椎茸、絹さや）
-----------------	--

● 喫茶（月によってはミキサー食の方にも召し上がって頂けるように配慮したデザートを提供）

4月	ストロベリーケーキ、桃のケーキ	10月	ティラミス、サワーチェリーケーキ
5月	ティラミス、白桃ムースケーキ	11月	いちごショートケーキ
6月	ストロベリーケーキ	12月	オペラケーキ
7月		1月	オペラケーキ
8月	サワーチェリーケーキ	2月	チョコケーキ
9月	マロンケーキ	3月	ダブルベリーケーキ

◎ 飲物・・・コーヒー・紅茶のどちらか好きなものを選択

表3【食事サービス】

● 食事サービス実績表

	月別実績 食数	一日平均 食数	前年度比率
4月	2,225	101.1	88.5%
5月	2,114	100.7	86.3%
6月	2,125	96.6	78.9%
7月	2,711	101.4	90.9%
8月	2,237	104.6	98.7%
9月	2,573	99.6	81.2%
10月	2,702	103.7	84.3%
11月	2,504	102.8	85.1%
12月	2,626	106.4	95.5%
1月	2,362	106.0	90.8%
2月	2,457	108.1	95.1%
3月	2,754	109.4	111.7%
計	29,390	103.3	100.9%

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名
通所介護（一般）	高原 信夫
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4月一杯にて事業終了した。4月の利用者30名、延べ利用数205名。コロナの影響等により利用を自粛された方もおられたが、最後まで利用したいと希望された方も30名有り。一日平均9名の利用となり、最後の一人まで法人理念に基づくあったかい介護を実践した。 ご利用者の声をしっかりと受け止め、地域の要望に最後まで応えられるよう対応した。 ご利用者のデイサービスにおける情報を移行先にしっかりと伝達することで、ご本人やご家族が安心できるように配慮した。
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> ご利用者の利用状況などをケアマネジャーに報告し、66名のご利用者は円滑に事業所移行できたが、3名の方はコロナの影響で見学が出来なくなり、4月末日までに移行する事業所が決まらなかった。 最終日まで生活機能の維持向上を図り、歩行練習、手作業、陶芸などで楽しみながら集中力、手先の巧緻性、判断力などの向上に努めた。 認知症のある方へのケアのミニ勉強会やケースの実践を通じて個別の対応を工夫し、家族とも共有する事で介護者の介護負担の軽減を図った。
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4月末までに70名中66名の事業所移行が完了した。3名については条件の厳しい方であり、コロナの影響も有って4月末には移行が完了しなかった。1名はご逝去された。 4月は15名定員に変更し、一日平均9.3名のご利用であった。
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 各職員がデイサービスでの経験をスキルとして身に付け、理解を深めることが出来た。次の職場で生かせることを期待している。
V	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 最後の1か月だったため、ご利用者の人数が少なくなり、寂しさを感じられる方もあった。それでも座席の配置やレクリエーションに工夫を凝らし、声掛けを丁寧に行った結果、「楽しかった」「今日も来てよかった」との声が聞かれた。 次の事業所に移る事に不安を感じているご利用者には不安を傾聴し、良い所だから大丈夫と励ましたり、不安の原因をケアマネジャーに伝えて不安の解消を図った。
VI	<p>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> デイサービスで培ったこれまでの経験やノウハウを、事業継続する認知症デイサービスひまわりにて生かすことが出来た。
VII	<p>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 開設から21年6か月でサービスが終了となり、ご利用されていた多くの皆様には不安や失望を与えてしまった。これまでのことを認知症デイサービスひまわりに伝え、経営面も含めて今後に生かしていきたい。

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名
認知症対応型通所介護（ひまわり）	穴道 美知子
I	事業概況・実績報告 （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） <ol style="list-style-type: none"> 1 法人理念に基づき、あたたかい介護を心掛けて実践した。 2 新しい体制の構築は出来てきたが、新型コロナの影響もあり地域のニーズを探る事は困難だった。 3 専門職との連携を密にとることで、ご利用者の残存能力の維持向上を目指した。
II	業務目標の達成に関する報告 （努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） <ol style="list-style-type: none"> 1 権利擁護における「あってはならない姿」と「あるべき姿」に対して、身体拘束にならないよう職員同士で声掛けすることでお互いに確認し、検証した。 2 朝のミーティングで日常的に学ぶ機会を得ることで、接遇や介護技術の向上を図った。 3 事故及びヒヤリハットは丁寧に検証し、対応策を繰り返し職員に伝える事で発生数の減少につなげた。 4 環境整備を行うことで、感染症対策を日常業務の中で実践できる状態にした。 5 疾病の知識と理解を深め、状況に応じた対応や判断が行えるよう多職種と連携した。
III	事業数値目標の達成に関する報告 （達成率・達成数値） <ol style="list-style-type: none"> 1 定員12名枠において、1日平均11名、稼働率92%を目指したが達成できなかった。新型コロナ感染症の影響と新体制による人員配置の見直しにより、平均利用人数8.16人、平均稼働率68.2%となった。 2 コロナ禍により書面による運営推進会議を年2回実施。ミニ懇談会（夕焼けサロン）は行えなかった。 3 毎日行うミーティングにて、適時研修を行った。
IV	業務の改善・見直し （改善・見直しに取り組んだこと・その結果） <ol style="list-style-type: none"> 1 常にご利用者を見守りやすい位置に職員を配置することで、所在確認を徹底した。 2 業務内容を全面的に見直し、超過勤務に対する声掛けを日常的に行った。 3 感染予防に留意しながら、できる行事を工夫して行い、ご利用者に楽しんでいただいた。 4 夕食の提供は実現できなかった。
V	業務の強化・向上 （強化・向上したこと） <ol style="list-style-type: none"> 1 感染対策の関係で回想法やクラブ活動は行えなかったが、音楽療法、アクティビティ等を通して、ご利用者への理解を深め、充実して過ごせる時間を提供した。 2 ご家族の気持ちに沿った対応ができるよう、送迎時の情報をミーティングで共有した。 3 ご利用者のニーズを探り残存能力が発揮できるよう環境調整を行った。
VI	業務の新たな試み （昨年度より開始した事業・業務・対応など） <ol style="list-style-type: none"> 1 日頃のケアに対して、その根拠を考えられるよう職員のミーティングを繰り返し行い、考えて行動できるよう促すことで、情報共有を図った。 2 中庭を積極的に活用し、楽しめる過ごし方を模索した。 3 新型コロナの感染対策に対してマニュアルを作成できた。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 <ol style="list-style-type: none"> 1 ご利用者にあったADL評価の方法の見直しを行う。 2 シャローム横浜内各部門と情報共有と連携を図り、総体的なサービス実施を目指す。 3 運営推進会議や介護者向けの懇談会等、コロナにより実施出来なかった事への対応方法の検討を行う。

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ケアマネジメント シャローム横浜	飯田 竜一郎
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の方々が独居、老老介護など困難な状況であっても、住み慣れた自宅で暮らせるよう、安心と信頼の提供を行った。 2 ご利用者の意思を尊重し、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことが出来るよう支援を行った。
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 関連機関との積極的な連携を図った。 <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所との連携を深め、適切な支援を行った。 ・行政、医療機関、各サービス事業所等からの相談には積極的な対応を行った。 ・旭区内及び県外からの認定調査の委託依頼には積極的に対応する準備は行ったが、依頼は無かった。 2 資質を向上させ信頼につながる体制構築を図った。 <ul style="list-style-type: none"> ・運営基準に基づいたサービスを実施した。 ・地域福祉保健サービスの新規開設などの情報を収集し、ご利用者のニーズに合ったサービスを提供できる体制の構築を行った。インフォーマルサービスについても積極的な取り入れを行った。
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 居宅サービス計画書作成件数30件の目標に対し、3月実績12件と40%の達成率。令和3年2月に開所し2か月間で30件を目標としたが、ケアプラザとの調整不足及びコロナによる訪問拒否が原因として挙げられる。 2 介護予防支援計画作成件数6件の目標に対し、年度末実績7件と116%との達成率。
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活困窮、老々介護、介護者の精神障害など、利用者が在宅生活を送る上で支障となる要素が多々あり、ケアマネージャーだけでは解決できないケースも多い。地域包括支援センター、行政、医療機関との連携や地域ケア会議への参加等を通じて多方面から意見を取り入れる機会を作り、困難な状況であっても可能な限り在宅生活を継続できるための支援の検討を行った。
V	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ご利用者の近所の方や、その他の地域住民の方と情報を共有し、介護保険のみに頼らずご利用者が地域の中で生活を継続できる状況が保たれるよう支援を行った。 2 ご利用者本人や家族が不安感なくサービスが利用できるよう、どんな話にも耳を傾け、共に考えながら専門職としての支援を行った。
VI	<p>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2月1日開設から2カ月しか経過していないため、今まで行ってきたことを実践する。
VII	<p>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 数値目標が未達成の為、研修や勉強会などに参加して多様な機関への営業活動を最優先事項として実施する。

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名
事務局	高橋 洋子
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <p>1 シャローム横浜事業計画基本方針の下、部門内・部門外のコミュニケーションを図り、互いに助け合い、チームワーク良く業務を遂行する目標に対しては、毎月の定例ミーティングで検討事項・連絡事項を全員で共有し、円滑に業務ができるように努めた。また、職員が不足している部門には積極的にサポートを行い、業務を支援した。</p>
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <p>1 事務局は、施設の顔としての意識を全員が持ち、家族面会業務を担当し、また来客・電話応対も明るく・丁寧を心がけて行うことが出来た。</p> <p>2 法人職員が“安心・安全”に業務が遂行できるように、4月に【あんしんカード】を作成し、ほぼ全員の職員が提出した。</p> <p>3 法人が運営する事業に対して事務機器・事務用品の整備、環境の整理整頓に努めた。</p>
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <p>1 各種助成金・補助金等で500万円の目標に対して、新型コロナ関係補助金1,086万円、外国人介護福祉士候補者受入施設167万円、神奈川県職業安定局40万円、神奈川県労働局15万円、神奈川県医療従事者健康保険組合35万円他で総額1,395万円の実績となった。</p>
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <p>1 各種委員会開催後は決定事項・連絡事項を全員に迅速に伝達し、情報の共有化に努めた。</p> <p>2 シャローム通信の編集委員に新たに職員が1名加わり、紙面のリニューアル化を検討し令和3年5月号より発行することとなった。またホームページに新たにメッセージフォームを作成したことにより、ご家族からご利用者宛のメッセージが多く届けられた。</p> <p>3 2階エレベーター隣に初めて防災倉庫を設置し、防災備品・消耗品をまとめて格納し、在庫管理をすることが出来た。また防災倉庫設置を職員全員に通知し、災害時は迅速に対応できるように努めた。</p>
V	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <p>1 感染対策のために朝礼がしばらくできない状況があり。開始後は朝礼のスタイルが変更したため、参加の声掛けをすることで、法人理念の理解に繋がった。</p> <p>2 学研介護サポート eラーニングやオンライン研修を積極的に活用して参加を促すなど、研修参加しやすい環境を整えることが出来た。</p> <p>3 地下倉庫及び会議室・廊下にある収納庫を整理整頓することにより、備品・消耗品の管理がしやすくなり、他部署からの要望にすぐ対応できるようになったことと、無駄な支出を抑えることが出来た。また、4月末に事業を閉鎖した一般通所のデイホールの備品の整理整頓に努めることで、新たな会議室・倉庫としての使用が可能となった。</p> <p>4 感染対策のために来館者があまりない状況ではあったが、できる範囲でお花や絵画を飾りつけすることで、心地よい空間づくりに努めた。</p> <p>5 利用料の支払い方法の個別化は実現できなかったが、未収金管理を強化し、迅速に各部門との情報の共有化を図り、未収金の減少に努めた。</p>

VI	業務の新たな試み （昨年度より開始した事業・業務・対応など） <ol style="list-style-type: none"> 中止していたご家族面会を電話等による予約制にし、営繕職員が製作した可動式アクリル板越し面会、状況に応じてガラス越し面会を実施し、ご家族より大変喜ばれた。 職員の緊急連絡網のツールとして、メールでの一斉送信が可能な“マメール”を取り入れ、ほとんどの職員が登録完了できたため、災害等に備えることが出来た。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 <ol style="list-style-type: none"> 請求業務・経理業務・施設管理業務・庶務業務のマニュアル作成、及び事業継続計画作成は進まなかったが、職員同士の連携により、業務の効率化が図れた。 築20年を経過した建物の修繕管理、介護ベッド・車椅子等介護用品の買い替え、厨房機器の老朽化による買い替えの迅速な計画書作成が課題となる。

1. 特養面会事業報告

面会件数

	3階	4階	合計
6月	8	3	11
7月	13	12	25
8月	10	13	23
9月	15	16	31
10月	19	16	35
11月	19	24	43
12月	19	19	38
1月	20	16	36
2月	19	17	36
3月	17	24	41
合計	159	160	319

コロナの為中止
 コロナの為中止
 土曜面会開始
 緊急事態宣言

面会人数

	3階	4階	合計
6月	8	5	13
7月	15	22	37
8月	12	22	34
9月	19	32	51
10月	30	27	57
11月	30	47	77
12月	35	47	82
1月	28	31	59
2月	27	31	58
3月	26	44	70
合計	230	308	538

2. 職員の研修参加状況

施設外研修

	平成31年度		令和2年度		増減	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	1	1	0	0	-1	-1
5月	11	12	1	1	-10	-11
6月	23	24	4	8	-19	-16
7月	24	25	3	3	-21	-22
8月	22	25	5	5	-17	-20
9月	27	30	18	22	-9	-8
10月	20	21	12	12	-8	-9
11月	11	12	18	18	7	6
12月	9	11	10	16	1	5
1月	9	10	6	6	-3	-4
2月	7	7	6	6	-1	-1
3月	0	0	6	6	6	6
合計	164	178	89	103	-75	-75

施設内研修

	平成31年度		令和2年度		増減	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	3	81	3	79	0	-2
5月	2	246	0	0	-2	-246
6月	1	10	2	18	1	8
7月	3	51	2	78	-1	27
8月	1	51	2	77	1	26
9月	0	0	1	62	1	62
10月	3	36	2	39	-1	3
11月	0	0	2	90	2	90
12月	0	0	2	12	2	12
1月	3	55	1	62	-2	7
2月	2	282	2	261	0	-21
3月	0	0	2	212	2	212
合計	18	812	21	990	3	178

3. 防災委員会の実施状況

NO.	開催日	案 件	参加人数
第1回	4月22日	自主点検表の確認、夜間帯の火災発生時における役割検討	10名
第2回臨時	4月29日	夜間帯の火災発生時における役割検討、施設内防災設備の再確認	6名
第3回	5月27日	自主点検表の確認、夜間帯の火災発生時における役割検討	8名
第4回	6月24日	自主点検表の確認、夜間帯の火災発生時における役割検討	8名
第5回臨時	7月1日	夜間帯の火災発生時における役割検討、火災時の動きを実際に再確認	8名
第6回	7月22日	夜間帯の火災発生時における役割検討、福祉避難所の備蓄品に関して	11名
第7回	8月26日	夜間帯の火災発生時における役割検討、災害用品保管庫の確認	8名
第8回	9月23日	自主点検表の確認、緊急連絡網の見直し、施設の災害時非常食に関して	9名
第9回	10月28日	自主点検表の確認、緊急連絡網の見直し、天井の火災センサーに関して再確認	6名
第10回	11月25日	自主点検表の確認、緊急連絡網の見直し、火災時の警備会社に通報に関して	8名
第11回	12月23日	自主点検表の確認、緊急連絡網のマメールに関して、非常用発電機の負荷試験	8名
第12回	1月27日	自主点検表の確認、緊急連絡網のマメールに関して、今年度の避難訓練に関して	5名
第13回	2月24日	自主点検表の確認、緊急連絡網のマメールに関して、福祉避難所災害物資に関して	10名
避難訓練	2月24日	日中、震度6弱想定での避難訓練、土砂災害避難訓練、消火器訓練	194名
第14回	3月24日	自主点検表の確認、緊急連絡網のマメールに関して、福祉避難所情報共有システム活用	8名
避難訓練	3月25日	夜間、1階職員食堂から出火を想定した避難訓練、非常食の体験、消火器訓練	211名
合 計			518名

4. 職員の入退職の状況

●法人内入職者明細

	平成31年度		令和2年度	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
特養3F	1	2	1	2
特養4F	2	3	1	2
医務	0	1	0	0
相談員	0	1	0	0
通所・一般	0	1	-	-
通所・認知	0	0	0	0
居宅	-	-	0	0
栄養課	1	6	1	4
事務局	0	1	0	0
GM上	0	1	0	1
GM鶴	0	0	0	0
ケアハウス	0	5	0	0
ひ地域	0	0	0	0
ひ包括	0	0	1	0
ひ生活	0	0	0	0
ひ居宅	0	0	0	0
ひ通所	1	10	0	3
ひキッズ	0	2	0	0
保育園	3	3	1	1
沖縄放課後デイⅠ	3	2	1	4
沖縄放課後デイⅡ	-	-	1	4
計	11	38	7	21

●法人内退職者明細

	平成31年度		令和2年度	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
特養3F	4	0	1	1
特養4F	0	1	2	4
医務	1	1	1	1
相談員	0	0	0	0
通所・一般	0	2	-	-
通所・認知	0	2	1	1
居宅	-	-	0	0
栄養課	2	8	0	5
事務局	0	2	0	1
GM上	0	1	0	3
GM鶴	0	0	0	1
ケアハウス	1	1	0	0
ひ地域	0	1	0	1
ひ包括	0	0	1	0
ひ生活	0	0	0	0
ひ居宅	0	0	0	0
ひ通所	0	10	2	8
ひキッズ	0	3	0	0
保育園	1	3	0	1
沖縄放課後デイⅠ	0	0	0	2
沖縄放課後デイⅡ	-	-	0	0
計	9	35	8	29

令和2年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業	岩並 仰
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況）</p> <p>市営ひかりが丘住宅において居住される高齢者の生活相談、見守り、安否確認を行った。お茶のみサロンはコロナ禍の影響で開催できなかった。アウトリーチ活動として、新規入居世帯等への訪問を行い、問題の早期発見、早期解決を目指した。</p> <p>相談者実数：187名 相談延件数：505件（内 来場：45件 安否確認時：145件 その他：313件） 相談内容内訳 病気：84件、介護：34件、経済面：31件、家事：52件、子育て：0件、家族関係：38件、制度関係：100件、防犯・被害：25件、近所関係：73件、住環境：67件 相談への対応（重複あり） 傾聴：344、情報提供：81、書類提出支援：41件、助言：170件、その他：100件、引継ぎ：108件 ・結果 解決：187件、不安軽減：56件、引継ぎ：100件、継続：217件、不満：4件 お茶のみサロン開設数：0回 見守り事業登録世帯総数：147世帯（9月末時点での継続：138世帯） 見守り登録者の性別 男性：53名 女性：101名 転入世帯訪問 計12件 見守り事業勧奨電話 計1702件</p>
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと、達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相談援助：昨年度を上回るペースで件数を受けている。 2 見守り事業：登録数はほぼ横ばいであった。登録者の孤立死は0件。 3 お茶のみサロン：コロナ禍の影響で開催できなかった。 4 アウトリーチ活動：コロナ禍が続いたので感染防止のため訪問は避け、あんしんカード作成済み世帯に見守り事業勧奨の電話を行った。
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相談対応後の結果（不満）件数の目標が0件のところ4件だった 2 見守り登録世帯の総数100世帯以上を維持できた。 3 見守り登録世帯の孤立死件数0（ここでの“孤立死”の定義は、「死後4日以上経過して発見された事例」とする）。 4 お茶のみサロンは開催できなかったため、数値目標は達成できず。 5 新規入居世帯への、6か月以内の訪問をすることができた。
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <p>コロナ禍での非常時の対応が主となり、特になし。</p>
V	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <p>外部研修への参加は自粛し、『ケアをひらく』シリーズなど専門書籍による自習を行なった。</p>
VI	<p>業務の新たな試み（今年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コロナ禍に適応し、あんしんカードを業務に活用するため、あんしんカード啓発ちらしを全戸配布し、新たな世帯にあんしんカードを配布・作成することができた。 2 緊急事態宣言中は、電話での相談対応を強化するべく、専用のちらしを全戸ポスティングした。 3 感染防止のための物品を整備した。
VII	<p>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</p> <p>相談対応結果「不満」4件。すべてコロナ禍により地域住民が直接的間接的に影響を受けたことによる相談で、COVID-19の検査が受けられないなどコロナ施策への不満もあった。</p>

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名												
四季の森小学校放課後キッズクラブ	北村 幸恵												
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 就労等により、放課後に保護者がいない小学生が安心して安全に過ごすことができる居場所を提供した。 2 地域との結びつきを重視し、利用者の通学する小学校をはじめとした地域の団体や関係機関との密接な連携をしたクラブ活動を目指した。 3 利用者が日々のクラブでの活動や他の児童との交流により、基本的な生活習慣を習得することや健やかに育成されることを図った。 4 新型コロナウイルス感染症の予防対策を行う上で異年齢児間の遊びや交流の方法は制限されたが、児童の創造性・自主性・社会性を育むことを目指した。 5 法人理念「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」に基づき、キッズクラブを利用するすべての児童の安全と保護者の安心を確保した上で、活動内容の充実を図った。 												
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナウイルス感染症の予防対策を第一に考え、児童及び保護者が安心してキッズクラブを利用できるよう配慮し、キッズクラブ内での感染はみられなかった。 2 大人数でのイベントを開催することはできなかったが、新型コロナ関連補助金を活用してソーシャルディスタンスを保ちながら活動ができる遊具（一輪車の導入等）を導入する等、児童が楽しんで過ごすことができるよう最大限の配慮を行った。 3 横浜市ひかりが丘地域ケアプラザとのボランティアコーディネートを通じた連携については、コロナ禍を踏まえ行うことはできなかった。 												
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <p>学校休業や利用区分1の限定利用等に伴い、昨年とは異なる実績となった。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 昼間平日参加児童数（利用区分1）</td> <td>1日平均</td> <td>目標：40名</td> <td>実績：6.3名</td> </tr> <tr> <td>2 夜間平日参加児童数（利用区分2）</td> <td>1日平均</td> <td>目標：10名</td> <td>実績：15.8名</td> </tr> <tr> <td>3 年間ボランティア活動人数（延べ人数）</td> <td>年間合計</td> <td>目標100名</td> <td>実績：0名</td> </tr> </table>	1 昼間平日参加児童数（利用区分1）	1日平均	目標：40名	実績：6.3名	2 夜間平日参加児童数（利用区分2）	1日平均	目標：10名	実績：15.8名	3 年間ボランティア活動人数（延べ人数）	年間合計	目標100名	実績：0名
1 昼間平日参加児童数（利用区分1）	1日平均	目標：40名	実績：6.3名										
2 夜間平日参加児童数（利用区分2）	1日平均	目標：10名	実績：15.8名										
3 年間ボランティア活動人数（延べ人数）	年間合計	目標100名	実績：0名										
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 感染予防に配慮しつつも、児童が楽しめるようなプログラムを常に検討・実施した。 												
V	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 感染予防に留意した結果、新型コロナのみならずキッズクラブ内でのインフルエンザの発症もみられなかった。 												
VI	<p>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 体験型プログラム（例：植物等を育てて収穫、児童が楽しめる新しいスポーツや遊びの導入等）の実施を検討したが、特に異学年が交流できるプログラムの実施は感染予防の観点から実施することができなかった。 												
VII	<p>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 体験型プログラム（例：植物等を育てて収穫、児童が楽しめる新しいスポーツや遊びの導入等）について、感染予防対策を講じた上での実施を改めて検討する。 2 多様な児童に適切な対応ができるよう、外部研修の参加等を通じて職員のスキルアップを図る。 												

事業報告書

令和2（2020）年度



あったかいが
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

グループホーム シャロームミルトスの木

グループホーム シャロームミルトスの木鶴ヶ峰本町

令和2年度 グループホーム事業報告

施設長 渡部 紀久

令和2年度のシャロームミルトスの木（上白根）とシャロームミルトスの木鶴ヶ峰本町は、多くの介護施設がそうであったように新型コロナウイルスの感染予防に明け暮れた1年でした。ただし、この1年が私共にとって辛く苦しいだけの1年であったかといえば、そうではありません。グループホームという地域密着型サービスならではの、近隣の方々との絆や温かい心遣いを感じ取ることでできた大切な1年でもありました。

そして、新型コロナウイルスの感染症対策は単に介護技術のスキルアップをもたらしただけではなく、介護分野でのICTの活用という新しい分野へと私たちの目を向けてくれました。実際、これまで考えもしなかったオンライン上での会議を行いWebセミナーで研修に参加しました。さらに厚生労働省が推奨する見守りカメラの導入や調剤薬局の在宅部門との連携を深め、より質の高い介護サービスの提供を目指しています。

この1年、コロナ禍でのレクリエーションの実施は大きな課題でした。試行錯誤の連続でしたが、感染症対策を十分に講じた上で里山ガーデンや寺家ふるさと村へのハイキングができたこと、密にならないように細心の注意を払いながらホームでの夏祭りや夕涼み会ができたことは、今後への自信につながりました。しかし、これまで春と秋に年2回開催していた家族会が今年度は1度も開催できませんでした。コロナ禍でも開催できる方法を模索しながら、来年度はご家族を個別にホームにお招きする方式で開催を検討しています。

さて、東日本大震災からすでに10年が経過しましたが、つい先日、東北地方で最大震度6弱という大きな地震がありました。幸い大きな被害はありませんでしたが、地震に対する恐怖心を呼び起こすには十分でした。私共が対峙しなければならないリスクは地震や感染症だけではなく、私たちにはどのようなリスクに遭遇してもホームの運営を安定的に継続するという大切な使命があります。ホームを運営するにあたっては、ご利用者が安心して生活できる場所であること、職員が安心して働ける職場であることで、初めて質の高い介護サービスを提供できるものと考えています。

新型コロナの感染が収束していない現時点で、令和2年度を総括することはかなり難しい事です。しかし、数年後にこの年を振り返った時に何か新しいことが始まった起点の年であったと評価することができれば、この1年の新型コロナ対応が報われるのではないかと考えています。

目 次

令和2年度
アドベンチスト福祉会

グループホーム ミルトスの木 (上白根) 事業報告	
事業報告、現況報告	3
行事報告	5
職員研修	6
グループホーム ミルトスの木 鶴ヶ峰本町 事業報告	
事業報告、現況報告	7
行事報告	9
職員研修	10

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名
シャローム ミルトスの木（上白根）	治部 実
I	事業概況・実績報告 （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 1 各ご利用者の能力を活かして、自立した日常生活を維持できるように支援を行った。 2 事故を未然に防ぐことで、ご利用者の安全を確保し、安心した生活の提供を行った。 3 ご家族の意向に沿った尊厳のある支援を行うことができた。
II	業務目標の達成に関する報告 （努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） 1 ご利用者が穏やかな生活を送ることができるように寄り添った支援を行うことができた。 2 防災・避難訓練を行ったことで有事の際の心構えが高まった。しかし、事故防止に関する研修は行うことができなかった。 3 回想法のビデオは取り入れたが、回想法を本格的に導入するまでには至らなかった。 4 適宜区分変更の申請を行うことで、介護負担に応じた収益を上げることができた。
III	事業数値目標の達成に関する報告 （達成率・達成数値） 1 夜間想定避難訓練を1回(消防署の立ち合いなし)、火災や地震を想定した避難訓練を1回、防災食の訓練を3回行った。 2 外気浴・散歩などにより、18名全ての利用者を1日1回外気に触れるようにするのは難しく、元気な方を散歩にお連れする傾向にあった。 3 サービス提供体制強化加算（Ⅲ）（3年以上継続勤務者を3割以上維持）は達成した。 4 入居率96.5%、目標としていた96%は達成する事ができた。
IV	業務の改善・見直し （改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 新型コロナウイルスの影響で年2回の家族会の中止や面会制限のため、ご家族と面談する機会が減ってしまった。 2 介護記録を定期的に検証することはできなかった。 3 ご利用者の変化を日々観察して、迅速に対応できるように努めた。 4 夜間のオンコール体制をシステム化することができた。ただし、職員全員が研修を受けることができず、対応方法を習得するまでには至らなかった。
V	業務の強化・向上 （強化・向上したこと） 1 回想法を本格的に導入することはできなかった。 2 各ユニットで記録の検証を行うことはできたが、それをホームとして統一したものにすることはできなかった。 3 職員に食費のコスト削減を意識付けさせることで、コスト削減に努めた。 4 新型コロナウイルスの影響で地域との交流を深めるのは困難であった。
VI	業務の新たな試み （昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 回想法を本格的に導入することはできなかったため、導入ができるよう取り組んでいきたい。 2 1日の業務予定表を再確認して、必要な業務を適正な人員できるように調整するまでには至らなかった。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 1 夜間の救急対応について、担当する職員に研修を行うことにより、オンコール体制が運用できるように取り組んでいく。 2 見守り支援カメラを導入したので、事故防止の検証や職員の接遇向上に活かしていきたい。

1 各ユニットの入居者状況 各階9名定員 合計18名

ユニット	性別	要介護度	年齢	ユニット	性別	要介護度	年齢
1階	女性	1	92	2階	女性	2	83
1階	男性	1	87	2階	女性	3	93
1階	女性	3	96	2階	女性	2	77
1階	女性	3	94	2階	男性	2	89
1階	女性	4	94	2階	女性	3	95
1階	女性	2	87	2階	女性	3	86
1階	女性	2	81	2階	女性	2	94
1階	女性	1	86	2階	女性	3	86
1階	女性	2	96	2階	女性	2	94

1階 平均年齢 90.3歳 要介護度 2.11 最高齢 96歳
 2階 平均年齢 88.5歳 要介護度 2.44 最高齢 95歳
 ホーム平均 89.4歳 要介護度 2.27

2 入院者数

区分 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	1	1	0	2	2	1	1	0	0	1	1	10
計	0	1	1	0	2	2	1	1	0	0	1	1	10

3 入居・退居の状況

区分 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3
入居者合計		0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3
退居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3
退去者合計		1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3

4 行事報告

月	行事内容	月	行事内容
4	お花見ドライブ お好み焼きパーティー	10	芋煮会 里山ガーデン散策
5	母の日のお祝い ほうれん草の収穫	11	担架・発電機の訓練 クリスマスツリー作り
6	父の日のお祝い 寺家ふるさと村散策	12	亀甲山教会クリスマス会の様子を視聴 クリスマスランチ 年越しそば
7	七夕かざり 大正琴の演奏会（2F 利用者様）	1	おせち料理 書初め 初詣
8	夕涼み会 花火大会	2	節分（豆まき） バレンタインデーおやつレク 防災食訓練
9	避難訓練 敬老の日お祝い	3	ひなまつりランチ 夜間想定避難訓練・消火訓練 お花見ドライブ

- ・ 毎月1回・・・書道クラブ
- ・ 毎月1回・・・腹話術ボランティア茅野様
- ・ 毎月2回・・・音楽療法
- ・ 毎月第1火曜日・・・紙芝居のボランティア神田様
- ・ 毎月第1火曜日・・・将棋のボランティア横山様
- ・ 毎月第2水曜日・・・ピアノ演奏ボランティア村井様
- ・ 毎月第1木曜日・・・歌の会ボランティア下田様
- ・ 毎月第3土曜日・・・お茶のみサロン（上白根ケアプラザ）
- ・ 1、4、7、12月・・・お茶会ボランティア
- ・ 年3回・・・ミコの会
- ・ 各誕生日・・・おやつにケーキでお祝い

*但し、令和2年度は新型コロナの影響でボランティア様の受け入れをすることが出来ませんでした。

5 運営推進会議

奇数月年6回開催 ※出席者：地域住民2名・ケアプラザ職員1名・入居者1名

・利用者家族1名・施設長・ホーム長・各ユニット長

*令和2年度の運営推進会議は6回開催したが、うち3回は文書による開催であった。

6 職員研修

研修名	研修日	参加人数
言葉使いと身体拘束（ホーム内）	4月17日	18名
新型コロナ感染症対応について（ホーム内）	4月22日	18名
個人情報保護・法令順守（ホーム内）	5月22日	18名
介護施設でのハードクレーム対処法(Webセミナー)	6月25日	1名
介護支援専門員更新研修 課程Ⅰ	9月1日から9日間	1名
介護施設におけるBCP策定(Webセミナー)	9月16日	1名
横浜市夜間想定避難訓練	9月18日	2名
感染症対策指導者養成研修	11月5日	2名
感染症勉強会（ホーム内）	10月16日	3名
介護支援専門員更新研修 課程Ⅱ	令和3年2月から5日間	1名
介護保険報酬改定について（Webセミナー）	1月26日	1名
集団指導講習会（オンライン）	2月20日	3名

- ・全体ミーティング、ユニットミーティング開催 毎月1回
- ・ケアプラン見直し 半年毎

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名
シャローム ミルトスの木鶴ヶ峰本町	浅岡 真美
I	事業概況・実績報告 （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） <ol style="list-style-type: none"> 1 ICFの視点に立ったケアプランを作成し、介護サービスを提供した。 2 ご家族と面談の時間を設け、ホームでの生活の上で、ご家族からの意向を確認した。 3 要介護3のご利用者ご家族と終末期をどの様に迎えるのか、又ご利用者ご本人からのご意向があるのかを確認。施設別の特徴をお伝えした。
II	業務目標の達成に関する報告 （努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） <ol style="list-style-type: none"> 1 消防署の協力により、水消火器での消火訓練を行い、具体的な避難方法などアドバイスを受けた。防災食をご利用者に試食して頂いた。飲料のキャップが開けられるかなど高齢者向けに適切な食品であるかを検討した。 2 ホーム内で感染症が蔓延する事は無かった。 3 今年度、ホームでの看取りは無かった。 4 スムーズな入退居により、空室日数を削減した。
III	事業数値目標の達成に関する報告 （達成率・達成数値） <ol style="list-style-type: none"> 1 夜間想定避難訓練を年1回、火災や地震を想定した防災訓練を年1回行なった。 2 コロナ禍であり、外出は殆ど実施する事が出来なかった。外気浴や隣接する公園への散歩などは実施出来た。 3 サービス提供体制強化加算（Ⅲ）（3年以上継続勤務者を3割以上維持）は達成した。 4 入居率96.73%であり、目標としていた96%を達成した。
IV	業務の改善・見直し （改善・見直しに取り組んだこと・その結果） <ol style="list-style-type: none"> 1 グループホームでのご利用者も重度化しており、個々に合った福祉用具の使用について機能訓練士のアドバイスや福祉用具メーカーなどとも相談し変更した。 2 職員がご利用者と同時に食事をしない事を徹底するため、タイムスケジュールを変更した。
V	業務の強化・向上 （強化・向上したこと） <ol style="list-style-type: none"> 1 運営推進会議はコロナウイルス感染防止のため、電話での情報交換を行い書面での伝達となった。 2 コロナ感染防止のため、職員一人一人が感染源にならぬよう、健康維持に努めた。
VI	業務の新たな試み （昨年度より開始した事業・業務・対応など） <ol style="list-style-type: none"> 1 コロナ禍での面会を実施するにあたり、各ユニット毎の面会スペースを設け、感染予防のため飛沫防止カーテンなどを設置した。 2 ご利用者との面会する迄の流れを明確化し、職員・ご家族がわかる様に掲示した。 3 緊急事態宣言中はご家族に臨時でのお便りを送付し、面会が出来ない中でもご利用者の様子をお伝えした。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 <ol style="list-style-type: none"> 1 感染源にならないようにとの思いから、全体的にご家族の面会控えの傾向がある。コロナ禍での面会を継続させるため季節に応じた面会スペースの確保などを考えていく。 2 ボランティアの受入れが出来ない中で、ご利用者の刺激や楽しみとなるような新しい日々のレクリエーションを考えていく。 3 ホームで感染者が出てしまった時を想定し、ゾーニング・職員の動きなどを常にミーティングなどで確認していく。

1 各ユニットの入居者状況 各階9名定員 合計18名

ユニット	性別	要介護度	年齢	ユニット	性別	要介護度	年齢
1階	女性	3	80	2階	女性	3	84
1階	女性	3	90	2階	女性	2	81
1階	女性	4	93	2階	女性	2	98
1階	女性	3	91	2階	女性	2	84
1階	女性	4	96	2階	女性	1	101
1階	女性	2	89	2階	女性	1	95
1階	女性	2	88	2階	女性	1	85
1階	女性	2	85	2階	女性	2	84
1階	女性	3	89	2階	女性	4	85

1階 平均年齢 89.0歳 要介護度 2.88 最高齢 96歳
 2階 平均年齢 88.5歳 要介護度 2.00 最高齢 101歳
 ホーム平均 88.7歳 要介護度 2.44

2 入院者数

区分 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	1	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	6
計	1	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	6

3 入居・退居の状況

区分 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3
入居者合計		0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3
退居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3
退居者合計		0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3

4 行事報告

月	行 事 内 容	月	行 事 内 容
4	お花見ドライブ	10	防災避難訓練 追分市民の森散策
5	菖蒲湯 母の日のお祝い 里山ガーデン散策	11	シャローム横浜 中庭ランチ 自治会へ使用済み切手の寄付
6	アジサイ見学	12	クリスマスランチ 亀甲山教会のクリスマス会視聴 年越しそば
7	七夕かざり	1	元旦 おせち料理 初詣 鍋パーティー
8	ミルトス夏祭り・かき氷	2	節分（豆まき） 防災食訓練
9	敬老の日のお祝い	3	雛祭り 夜間想定避難訓練 お花見ドライブ 追分市民の森散策

- ・ 毎月1回・・・書道クラブ ボランティア望月様
- ・ 毎月1回・・・紙芝居 ボランティア神田様
- ・ 毎月2回・・・音楽療法 西職員
- ・ 毎月1回・・・腹話術 ボランティア茅野様
- ・ 毎月1回・・・歌の会 ボランティア下田様
- ・ 毎月第2水曜・・・ピアノ演奏 ボランティア村井様
- ・ 年2回・・・旭区混声合唱団 ミコの会様（13～14名）
- ・ 毎月1回・・・旭区地区センター ボランティアなごみの会様
- ・ 不定期・・・包丁研ぎ ボランティア津久井様
- ・ 各誕生日・・・おやつにケーキ、食事の際にお赤飯などでお祝い、写真入り色紙

*但し、令和2年度は新型コロナの影響でボランティア様の受け入れをすることが出来ませんでした。

5 運営推進会議

偶数月年6回開催 ※出席者：地域住民1～2名・ケアプラザ職員1名・入居者1名
・利用者家族1名・施設長・ホーム長・各ユニット長

*令和2年度の運営推進会議は6回開催したが、うち3回は文書による開催であった。

6 職員研修

研修名	研修日	参加人数
言葉使いと身体拘束（ホーム内）	4月17日	18名
新型コロナ感染症対応について（ホーム内）	4月22日	18名
個人情報保護・法令順守（ホーム内）	5月22日	18名
防火防災管理者講習	6月5日	1名
実務者研修	8月から12月	1名
介護福祉士実習講師研修会	8月から4回	1名
安全運転講習会（法人内）	8月26日	2名
横浜市夜間想定避難訓練	9月8日	3名
感染症対策指導者養成研修	11月5日	2名
介護支援専門員更新研修 課程Ⅱ	令和3年2月から5日間	1名
介護保険報酬改定について（Webセミナー）	1月26日	1名
集団指導講習会（オンライン）	2月20日	3名

- ・全体ミーティング、ユニットミーティング開催 毎月1回
- ・ケアプラン見直し、カンファレンス 半年毎

事業報告書

令和2（2020）年度



あったかいが
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

ケアハウス シャローム桜山

2020年度 シャローム桜山事業報告

施設長 村本 英邦

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大によってシャローム桜山の運営、経営は大きな影響を受け、入居者の生活も職員の業務もこの感染症に大きく翻弄され続けた1年となりました。平時に立てた予定や計画が、或いはそれまで当たり前とされてきたことが崩れ去る現実と直面しますと、改めて入居者の生命の尊さとそれを預かる側の責任の大きさを痛感致します。

このコロナ禍の影響を受ける中で、横浜市内のケアハウスにおいても感染予防に関する具体的な対応が求められました。各施設は入居者の状態に合わせて独自の対策を講じておりますが、シャローム桜山も同様に求められ対応して参りました。具体的な内容は課長報告に譲りますが、これらのことは事業計画の立案時には想定できなかった緊急事態となりました。この事態に際し、職員が自ら考え提案した予防策を講じることで一人の感染者も出さなかったことは評価に値すると思えます。

その中で、私たちは①福祉の本質に根差した支援の在り方を目指す。②入居者の生活の質を向上させる取り組みを目指す。③安心と安全に対する取り組みの具体化を図る。という3つのテーマについて取り組んできましたが、この取り組みは福祉そのものを見つめなおす機会にもなり、職員としての成長（深まり）という観点からも意味のあるものでした。そしてこのテーマは法人理念が掲げる「いのち」に向かう姿勢への誘導灯となり、入居者のデリケートな問題や生活課題に誠実に向き合わせ、感染症や自然災害を含む緊急時対応への備えを強化することにもなりました。

一方では、経年による施設の躯体劣化が進み、大雨などによる水漏れや給湯設備の問題等、多くの課題も出ております。これらの課題は収支に大きく影響しますので、今後は段階的にかつ速やかな対策を講じる必要があります。計画的な管理による躯体の保守に努めて参ります。

終わりに、コロナ禍に翻弄された2020年度は困難の中にあっても入居者の安全を適切に確保し、職員の絆をいっそう強め、信頼による連携を通して業務の効率化を進めることを意識しました。精神面においては福祉に向かう意味と真の喜びが何であるかを知ることになり、このことへの感謝をこめてここに事業報告を提出致します。

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ケアハウス シャローム桜山	田中 綾子
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 理念を具現化するために、キリスト教福祉と実践根拠としての聖書理解に努めた。 2 新型コロナウイルスの感染予防対策を以下の通り行った（感染者は0人）。 <ol style="list-style-type: none"> ① 入居者に外出自粛の協力を呼びかけた。 ② 感染予防対策として入居者懇談会を中止したが、事務所からさくらやま便りを通して必要な情報提供を行い、施設長は文書を通して精神的なフォローを行った。 ③ 食事形態を職員の盛り付けによるお弁当形態に切り替えて対応した（1日3食）。 ⑤ 玄関ドア内に手洗い用シンクを設置した。 ⑥ AIサーマスタ体温測定カメラを設置した。 ⑦ 会議室・事務所にパーテーション設置し、受付にロールスクリーンを設置した。 ⑧ 新型コロナウイルス感染症包括支援金の補助金を最大限に有効活用した。 3 職員同士がコミュニケーションを取り、アイデアを出し合うことで、コロナ禍における入居者の心身に配慮した新しい生活スタイルを模索した。
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運営委員会の内容においては、常に入居者の尊厳と人権への配慮を意識した。 2 入居者の充実した生活を確保するため、個々のニーズを把握し支援内容を検討した。 3 BCPの観点から有事の際の安全を確保するため、避難訓練、防災訓練等の法定訓練を実施し課題を抽出した。また入居者の身体状況に応じて避難場所の変更等を行った。
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入居者の家族や地域の方々を対象とした勉強会を計画したが、新型コロナウイルスの感染防止のため実施を延期した。 2 職員のスキルアップを目的とした外部研修は、コロナ禍による開催中止が相次いだため、eラーニングなどの内部研修を中心に行った。 3 退去者6名、入居者7名、過去3年の平均入居率97.5%から、2%上回り今年度99.5%を達成できた。 4 ホームページによる広報活動は、職員のスキルが追い付かず実施できなかった。
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運営委員会とスタッフミーティングを分離し、運営改善に向けた取り組みを始めた。尚、より客観的な視点で同委員会を充実させるため、法人事務局、栄養課、グループホームより代表者が参加できるように調整した。 2 業務分担の見直しにより業務の効率化と質の向上を図った。 <ul style="list-style-type: none"> ・清掃専門職員の配置により、事務所窓口業務の対応の充実に努めた。 ・事務業務の分担の見直しを行い、生活相談員と入居者との関わる時間を多くした。 2 業務マニュアルを見直し、全体ミーティングで周知し業務内容の適性化を図った。 3 老朽化による設備の補修管理を行うとともに、経過を記録に残した。
V	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 緊急時に備え、居室に掲示してある「緊急時情報」を随時見直し、常に最新の情報が分かるように改善した。 2 施設サービス計画書の作成・見直しを行い、個々の状況把握に努めた。

VI	業務の新たな試み （昨年度より開始した事業・業務・対応など） <ol style="list-style-type: none"> 1 職員の勤務体制を入居者の個別支援に細かく対応できるよう見直した。 2 ファーストケアを導入することで業務日誌をデジタル化し、情報のデータベース化を図り、支援の内容や特記事項を共有できる環境を整えた。入居者の情報を蓄積することで個々の特性に合った支援内容を策定し、サービスの向上に繋げた。 3 アイパッドを導入することで記録のデジタル化を図り、記録にかける時間を効率化したことで記録の重複を避け、内容の明瞭化と業務の負担軽減を行った。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 <ol style="list-style-type: none"> 1 待機者の確保に繋げるための広報活動媒体であるホームページを充実させることと、それに対応する職員のスキルアップ、そしてその時間を確保することが課題である。 2 懸案事項であった屋上から 3 階天井への漏水箇所の特定ができたが、補修工事は高額になるため引き続き業者と解決に繋げていく。 3 コロナ禍によるコミュニケーションの減少は、認知症の進行にも影響すると考えられる。一部、その傾向が顕著になった入居者については個別援助が課題となっている。

1. 現況の報告

1) 人数・年齢（令和3年3月31日現在）

区分	人数	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男性	12	89	67	83.0
女性	37	98	70	85.8
合計	49			84.4

2) 年齢階層別表（令和3年3月31日現在）

年齢／性別	男性	女性	計	比率(%)
～59才	0	0	0	0
60～64	0	0	0	0
65～69	1	0	1	2.04
70～74	1	1	2	4.08
75～79	2	5	5	10.2
80～84	4	9	13	26.53
85～89	5	13	18	36.73
90～94	1	5	6	12.24
95～99	0	4	4	8.16
100～	0	0	0	0
合計	12	37	49	100

3) 入居前住所別人数（令和3年3月31日現在）

区分	神奈川県			神奈川県外		合計
	市内旭区	市内旭区外*1	横浜市外*2	東京都*3	都外*4	
男性	1	5	2	3	1	12
女性	10	10	5	8	4	37
計	11	15	7	11	5	49

- *1 港南区2名・保土ヶ谷区5名・戸塚区2名・磯子区1名・青葉区1名・瀬谷区1名・南区2名・栄区1名
 *2 鎌倉市2名・相模原市2名・大和市1名・横須賀市2名
 *3 台東区1名・大田区2名・小平市1名・江東区1名・多摩市2名・立川市2名・東久留米市1名・世田谷区1名
 *4 千葉県1名・茨城県1名・愛媛県1名・佐賀県1名・北海道1名

4) 入居・退去の状況（令和2年度）

区分		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居	男性	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	女性	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	5
入居者合計		0	3	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	7
退去	男性	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
	女性	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	4
退去者合計		1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	2	0	6

5) 入院者数（令和2年度）

区分	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	3
女性	4	2	3	3	3	2	2	1	1	2	1	5	29
計	4	2	3	3	3	2	2	1	3	2	1	6	32

6) 入居者のADL（令和3年3月31日現在）

区分	自立	一部 介助	内訳(一人につき複数項目の該当あり)									
			入浴	排泄	歩行	配膳	洗濯	掃除	通院	薬管理	その他	
男性	10	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
女性	25	12	9	0	5	5	4	8	6	0	0	0
計	35	14	9	0	0	5	4	10	6	0	0	0

7) ホームヘルパー利用状況（令和3年3月31日現在）

	週1回 利用	週2回 利用	週3回 利用	週4回 利用	週5回 利用	週6回 利用	週7回 利用	合計
男性	2	0	0	0	0	0	0	2
女性	7	4	1	0	0	0	0	12
計	9	4	1	0	0	0	0	14

8) デイサービス利用状況（令和3年3月31日現在）

区分	週1回利用	週2回利用	週3回利用	週4回利用	週5回利用	合計
男性	1	0	0	0	0	1
女性	2	0	0	0	0	2
計	3	0	0	0	0	3

9) 介護保険認定者一覧（令和3年3月31日現在）

区分	自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	10	0	1	0	1	0	0	0	12
女性	25	3	5	2	1	1	0	0	37
計	35	3	6	2	2	1	0	0	49

10) 入居率（令和2年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間平均 入居率
人数	48	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	49	
%	96	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	98	99.5

事業報告書

令和2（2020）年度



あったかいが
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ

【目次】

1	所長（基本方針）	2
2	地域包括支援センター	3
3	地域活動交流部門	5
4	生活支援体制整備事業	7
5	居宅介護支援事業	8
6	通所介護事業	10
7	通所介護給食部門	12

令和2年度 横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ事業報告

所長 西村 明史

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザは「地域の身近な福祉拠点」として「地域づくり」「地域のつながりづくり」を行うとともに、地域及び行政と連携し、地域の中での孤立を防ぎ、支援が必要な人を把握し支援につなげていくことを目的として設置されています。

この目標を踏まえ策定した令和2年度の基本方針の成果についてご報告いたします。

私たちの4つの役割について、成果をご報告いたします。

- ①地域の身近な相談窓口として、日常業務や地域住民とのつながりを通じて把握したあらゆる相談や情報を受け止め、出来るかぎりの対応をまいりました。
- ②適切な支援策を地域ケアプラザとして考え、支援を行い、あるいは適切な機関につながる、受け止めた相談等の支援策を考える場に主体的かつ継続的に関わってまいりました。
- ③地域の魅力と課題を把握し、課題解決に向けた活動を主体的に行うとともに、地域の活動を見守り、支え合う仕組みづくりに取り組みました。現実には、コロナ禍の影響もあり、出来ることを見つけ、少しずつ取り組むという状況でした。
- ④区役所、区社協及び他地域ケアプラザ等と連携し、個別支援で捉えた課題や地域の取り組みを区の施策につなげるよう取り組んでまいりましたが、包括レベル地域ケア会議の開催もかなわず、情報収集、課題の整理などを行うにとどまっているのが現状です。

私たち社会福祉法人アドベンチスト福祉会は「いのちを敬い いのちを愛し いのちに仕える」という理念を掲げており、職員への理念の周知にも努めてまいりました。

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザの職員として、地域住民がこの地域を大切に想う気持ちに負けないよう、「地域を敬い 地域を愛し 地域に仕える」ことを職務の根幹に据え、コロナ禍で思うように動けない中でも、関わるすべての方々の生活と尊厳を支えるために全力で様々な事業に取り組んでいます。

令和2年度事業報告 部門名	計画責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域包括支援センター	川上 恵美子
I	事業概況・実績報告 高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、地域の高齢者の心身の健康維持、介護予防・権利擁護・保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助・支援を包括的に行うよう感染予防をしながら努めた。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 下記業務を区福祉保健センターと密接な連携を図りつつ行ったが、感染予防のためやむを得ず中止したものもあった。 <ol style="list-style-type: none"> 1 包括的支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ア、第一号介護予防支援事業（居宅要支援被保険者に係るものを除く、基本チェックリスト該当者） イ、総合相談支援業務 ウ、権利擁護業務 エ、包括的・継続的ケアマネジメント業務 オ、在宅医療・介護連携の推進 カ、生活支援サービスの体制整備（生活支援体制整備事業、地域活動交流部門と連携） キ、認知症高齢者の総合的支援 2 介護予防支援業務（一般介護予防事業・生活支援体制整備事業、地域活動交流部門と連携） 3 第一号介護予防支援事業（居宅要支援被保険者に係るもの）
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） <ol style="list-style-type: none"> 1 相談には迅速・丁寧な対応を心がけた。必要があれば訪問して相談を受けた。 よりの確な支援をするために資質の向上を図る…相談件数、約月99件（年間1191件） 2 介護予防事業の開催及び認知症予防、ロコモ予防等の普及啓発 … 年間60回 3 権利擁護の普及啓発研修、認知症の勉強会 … それぞれ年に1回 4 地域ケア会議の開催 … 個別会議 年4回、 包括レベル会議 中止
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 生活困窮、精神保健福祉関連支援等、複雑化する地域課題を少しでも解決できるような策を講じられるよう、さらなる情報収集に努め、資料等のデータ化に取り組み、より客観的な分析を試みた。8050問題・高齢期発達障害アンケートへの回答も情報整理等に役立った。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） <ol style="list-style-type: none"> 1 ケアプラザ内の地域活動交流部門、生活支援体制整備事業と連携しつつ、行政や地区社協、自治会や地域の介護保険施設、医療機関、障害福祉関係機関、商店、ボランティア等様々な方々とのネットワークを維持・強化することに努めたが、感染対策で会合は困難であった。 2 精神科領域の相談に対し、精神科医個別相談会（6回）を軸に関係機関との連携も強化しつつ、支援体制の構築及び対応力の向上を図った。 3 手口がより巧妙化している振り込め詐欺や悪質商法等に対し、被害の縮小化をはかるべく、より一層の防止策の周知を図ったが、実際には訪問詐欺被害が1件、被害直前で食い止めた事例が1件あった。
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） <ol style="list-style-type: none"> 1 8050問題等に対する検討・対応力向上のため研修参加を希望していたが、コロナ禍のため参加可能な研修が開催されず参加に至らなかった。 2 介護予防を推進する人材育成の方向性について説明すべく区と連携しパートナー研修を開催する予定であったが、コロナ禍のため開催を断念した。 3 フードバンク事業は、区社協・生活支援体制整備事業等と連携し必要時適切な対応を行

った。

VII 残された課題・評価・反省・その他特記事項

・感染予防のため集合して開催するものが実施できず、次年度へ企画を繰り越すこととなった。緊急事態宣言中は外出が制限され、定期的な通いの場が中止となっていたため、ADLの低下を予防すべく自宅でできる体操のプリントを配布したりしたが、長引く感染対策のために、心身の機能低下が懸念される。直接の会合が出来なくても、文書による情報提供などを実施し、支援者のネットワーク維持に努めたが、パンデミックそのものが初めての経験のため対応に苦慮することが多かった。

令和2年度事業報告 部門名	計画責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域活動交流部門	川崎 数美
I	事業概況・実績報告 1 住民主体の地域づくりは、コロナ禍の中、思うように活動できず、具体的な成果は出せなかった。 2 地域福祉保健計画（災害に備える・仲間作り・多世代交流・健康づくり・高齢者や障がい者、子どもの見守り・助け合いの仕組みをつくる）をコア会議・支えあい連絡会を開催し、推進することができた。 3 情報収集と周知方法を整え、場の提供と交流をコロナウィルス感染予防対策のもと行った。 4 設備や建物の適正管理と経費削減を検討し、水道料金の削減に着手した。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 1 関連機関や他職種と連携する為に会合や連絡会へ積極的に参加した。 2 地域包括支援センターや生活支援体制整備事業等と連携して相談内容の分析を行い地域支援事業に繋げるよう毎月のミーティングで意見交換を行うことができた。 3 地域のニーズに即した、自主事業が実施できるよう、地域の方や他のケアプラザなどと情報を共有し、コロナ禍なりの再開が出来るよう努力した。 4 利用者が安心して使用できるように、敷地内の建物や庭、設備等を整えるよう努力した。 5 あたたかい窓口と、迅速な対応を行えるよう、毎月の振り返りを行い情報を共有した。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 主催事業を月10種、延べ20回以上開催する目標は、緊急事態宣言、横浜市からの貸館閉館指示に伴い、達成できなかった。 2 来館者数月2,000名以上を目標に掲げたが、閉館・自主事業の休止に伴い平均来館者数は月630名にとどまった。 3 固定経費の削減3万円／月（水道光熱費・通信費・コピー代など）を目指し達成できた。
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 地域包括支援センターや生活支援体制整備事業等と連携して、見守りネットワークや居場所作りなどの需要に対して、提供が充分行き届くよう取り組んだが、創出方法を見直すまでには至らなかった。 2 見落としや間違いを減らすために、記録の書き方や申し送り事項等の業務を見直し、Gセッションのショートメール機能を利用し、サブコーディネーター全員で情報共有を行った。 3 広報の手段や内容（募集記事・部屋利用状況表・掲示板・ホームページ）の一部見直しを行った。 4 ネットワーク環境の整理や、水道光熱費、建物管理、警備などを見直すことについては、行政からの指示を受け、ケアプラザ館内にWi-Fi環境を設置することができた。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 コロナ禍においては、地域ボランティア団体への支援や情報提供、各団体からの意見収集に努めることは難しかったが、毎月のお便りを郵送すること、定期的に連絡を取ることで、ケアプラザとの繋がりを維持することができた。 2 災害など有事の際の役割確認と、地域との防災協力体制の強化は、防災訓練の参加等にとどまった 3 近隣の保育園・幼稚園・小中高学校にアプローチし地域の方々、特に高齢者との交流の場を設定することについては、コロナ禍において地域の方との新たな交流の場を設置することはできなかった。 4 広報活動を通し、地域防災・防犯・トラブル防止につながる情報の発信に努めた。

	<p>5 各種募集記事など、地域への情報発信の内容を充実させることができた。</p> <p>6 環境の向上に努め、水道蛇口への器具取り付けにより、経費削減の試みを開始した。</p>
VI	<p>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <p>1 AED 講習を地域の住民向けに行うなど、住民主体の地域を作るべく需要を的確にとらえ支援していくことについて、コロナ禍のため開催できなかった。</p> <p>2 AYAMU の推進を図るため、生活支援体制整備事業と連携し、地域資源の有効活用及び効率が図れるようにシステムを積極的に活用するには、至らなかった。</p>
VII	<p>残された課題・評価・反省・その他特記事項</p> <p>コロナウィルス感染症の蔓延という未曾有の一年が続き、地域の方々を集め、活発な活動を提案すべきケアプラザの地域交流活動は、多くの制約の中、かろうじて続けることができた。それでも囲碁・麻雀・健康吹き矢・社交ダンスなどの自主事業は1年を通して、開催することができなかった。今後も行政の指導に従い、安全で快適な施設運営を行えるように感染症対策を徹底して行い、地域の方々の笑顔をケアプラザの活動を通して、見られるように努力していきたい。</p>

令和2年度事業報告 部門名	計画責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 生活支援体制整備事業	滝沢 泰彦
I	事業概況・実績報告 地域包括ケアシステムの構築に向けて、生活支援コーディネーターの配置や協議体の設置を通じ、多様な主体による多様な支援の提供体制を構築し、生活支援・介護予防の充実した地域づくりに取り組んだ。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 1 コロナ禍により活動団体は限定的ではあったが、地域の活動団体や活動者を、ホームページやブログ、広報などで積極的に紹介し、活発な活動を促した。 2 ケアプラザ内の各部署と協働し、介護予防・助けあいを推進する為、活動団体の担い手育成に努める予定だったが、コロナ禍のため低調であった。 3 地域活動が低調だったため、地域住民へのアンケートなどは取ることが出来なかった。 4 区社協や区役所など多様な機関と協働し、地域活動の活性化や地域活動者、団体の課題解決に繋がるよう支え合い連絡会等で努めた。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 毎月発行される広報紙に地域活動紹介等を12回行い、地域活動の活性化を呼びかけた。 2 地域包括支援センターと協働し、認知症サポーター養成講座を1回行った。 3 シニアボランティア講習会はコロナ禍のため行う事は出来なかった。 4 保健活動推進員・地域包括支援センターと協働し介護予防を計画的に進め、介護予防教室を年間12回行った。（公団ハマトレ体操等） 5 区内ケアプラザ・区社協・区役所などと協働し、地域活動団体の活発な活動に繋がるよう、研修や交流等を行った。
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 地域ケアプラザ内で地域資源の情報共有を図る為、AYAMU システムの課題解決に区役所や区社協と協働し改善に努め、引き続き進めている。 2 支え合い連絡会を用いて、関係性の強化や活動団体の課題抽出に努めた。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 フードバンク事業について、区社協・地域包括支援センターと連携し生活困窮者へ必要な対応を行うことが出来た。 2 企業と地域との連携・交流はコロナ禍のため低調であったが、次年度に向けた下準備は行えた。 3 生活支援に準ずる地域活動団体の活発な活動を推進出来るよう、多様な研修を区社協・区内ケアプラザと連携し行った。 4 地域の担い手不足軽減を図る為、学生と地域との接点を増やし、地域活動への関心を高める企画については、コロナ禍のため行うことが出来なかった。 5 共生社会への関心を持って頂けるよう、ホームページ・ブログ・ユーチューブ動画等を利用しインフォメーションを行った。
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 地域課題である認知症への理解を多様な世代と共有する為、学生やその親世代が参加のしやすい環境整備を地域・地域包括支援センター・地域活動交流部門と協働し行う予定だったが、コロナ禍により新しい取り組みは出来なかった。
VII	残された課題・評価・反省・その他特記事項 1 コロナ禍に伴い、当初の予定を変えて、コロナ禍でも出来ることを模索した一年だった。新しい取り組みだったので、効果がまだ見えていないが、今後効果を実感できるような結果を出していきたい。

令和2年度事業報告 部門名	計画責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 居宅介護支援事業	江口 直美
I	事業概況・実績報告 地域の方々が独居、老老介護など困難な状況であっても、住み慣れた自宅で暮らせるよう、安心と信頼を提供する。ご利用者の意思を尊重し、その有する能力に応じて、自立した日常生活を営むことが出来ることを目指し、支援を行った。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 1 互いに連携する <ul style="list-style-type: none"> ・毎月実施される民生委員懇談会に出席し、情報共有を行った。 ・サービス事業所、地域包括支援センター、行政、医療機関等からの相談には積極的に対応し連携を深めた。 ・ケアプラザ協力医とケースカンファレンス会議を実施し連携を深めた。 ・予防介護支援事業と協力し予防支援居宅サービス計画書作成した。 ・旭区内からの認定調査の委託に対応し、地域の方々に資するよう務める。また県外からの調査依頼にも対応した。 2 互いの資質を向上させ信頼に繋がる体制を作る <ul style="list-style-type: none"> ・運営基準に基づいたサービスを実施した。 ・月に一回事業所内事例検討会を実施、一つの事例に対し多方面からの意見を得られる場を作っている。 ・事業所内で連携を図り、包括・地域・通所からの情報、助言を受けられることで、緊急の際も早急に対応出来る体制の維持に努めた。 ・「サービス内容に関するご利用者アンケート調査」、により、業務の振り返りと改善を実施した。 ・新規開設の地域の福祉・保健サービス等の情報を収集し利用者のニーズにあったサービスを提供出来る体制を維持した。インフォーマルサービスに関しても積極的に取り入れた。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 居宅サービス計画書作成件数：年間目標1,056件に対し、1,141件作成。 2 介護予防支援計画作成件数：年間目標408件に対し、408件作成。 3 認定調査受託件数：年間：年間目標80件に対し、59件受託。 4 事例検討会の実施：年間：年間目標6回に対し、2回実施。（コロナ感染予防の為）
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 生活困窮、老老介護、介護者の精神障害など、利用者が在宅生活を送る上で支障となる課題が多くあり、ケアマネジャーだけでは解決できないことも多い。例年であれば地域ケア会議の中で多職種の意見を踏まえ対応していくことが出来たが、感染予防の為会議が開催されず、今年度は個別に意見を伺い対応することが主であった。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 利用者の近所の方や、その他の地域住民の方と協働し、介護保険のみに頼らず利用者が地域の中で暮らせる機会を作っていくよう努力した。 2 緊急事態宣言により訪問を控えた利用者が多く、電話のみのモニタリングが続いた。実際に訪問しないとわからない部分も多く変化を見逃してしまう可能性もある為、各事業所とといった連携を取りながら、状況の把握に努めた。
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 今年度は、同法人、シャローム横浜居宅介護支援が開設され、担当利用者の調整を含め、協働する場面も多かった。今後も積極的に新規の利用者の相談に応じていく。

VII	残された課題・評価・反省・その他特記事項 1 次年度もコロナ禍の影響により訪問を控えたり更新を延長したりと従来と異なる対応が必要となると考えられる。どんな状況であっても利用者が不安なく自宅での生活が出来るよう、サービスの調整と多職種との連携を密にして支援を継続していく。
------------	---

令和2年度事業報告 部門名	計画責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 通所介護事業	林田 広美
I	事業概況・実績報告 <ol style="list-style-type: none"> 1 デイサービスの支援が必要な利用者の意欲と生活機能及び生活意欲の維持・向上めざし、サービスの提供を試みたが、コロナ禍の影響により活動内容に制限がある中の取り組みになった。 2 地域福祉の担い手として責任感を持ち、多様な資源との『繋がり』を大切に『謙虚な気持ち』ご利用者及びご家族への支援を実践した。 3 利用者・ボランティア・職員が、それぞれに《目配り・気配り・心配り》を行うことによりさらに暖かくご利用者からも地域からも必要とされるデイサービスを目指したが、目標達成に至らなかった部分もあった。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） <p>笑顔で迎え、笑顔で送るデイサービス。「来てよかった」「また来たい」と笑顔で過ごしていただけるデイサービス。ご利用者や家族が安心できるデイサービス。常に安全とサービスの質の向上を意識して日々の業務に取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制度に即した運営：利用者それぞれの生活にあった、選べるサービス、また個々に必要なケアプランに添ったサービスを提供し誰もが安心して生活が送れるよう法令を遵守した計画的な事業の実施を目標とし、職員の配置や業務内容の整理、利用者のケア充実のため、短時間利用枠を廃止するなど業務改善に取り組んだ。 2 サービスの質の向上：介護保険制度や高齢者の病気や薬の知識など、介護職員の資質向上を目的とした研修への参加がコロナ禍の影響もあり思うように出来なかった。 3 情報発信：必要に応じご家族やケアマネジャーに文章や電話などで情報の提供を行った。特に身体的及び精神的に急を要すると判断した時は、速やかに家族のみならず医療等、関係機関とも情報共有に努めた。また、急変時の連絡体制も個別に対応方法の明文化も行った。 4 各所との連携：地域包括支援センターや関係機関と連携し、特に困難ケースでは早め早めに対応しケース記録等記載も徹底して行った。 5 個人情報の適切な管理：個人情報の有用性に配慮し、その権利と安全の保護に努めた。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） <ol style="list-style-type: none"> 1 一日平均延30人以上のご利用者数の確保を目標としたが、曜日ごとの利用希望の偏りやコロナ禍の影響で、希望参加や時短営業の影響もあり、目標達成には至らなかった。 （通常規模事業所定員40名）年間平均稼働率81% 年間一日平均利用者数24.3人 2 コロナ禍の影響で、研修など介護サービス情報の公表の調査項目を全て実施するに至らなかった。
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） <ol style="list-style-type: none"> 1 職員間の連絡・連携を徹底できるように、方法と手段の見直しを行い、業務連絡ノートの改善、目安箱の設置、業務改善を目的とした検討委員会の立ち上げなどを行った。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） <ol style="list-style-type: none"> 1 介護福祉士国家試験の受験資格がある職員が資格取得に取り組めるようサポートした。 2 業務マニュアル等について、改善必要個所において随時修正、再作成を行った。 3 テラスの整備において美意識を持ち日常的に整理に努めた。
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） <ol style="list-style-type: none"> 1 生活相談員・介護職員・看護師等が情報を漏らすことなく共有できる方法の構築について、引き続き取り組んでいる。
VII	残された課題・評価・反省・その他特記事項 <ol style="list-style-type: none"> 1 介護保険制度や高齢者の病気や薬の知識など、介護職員の資質向上を目的とした研修に

	ついて、オンライン等での参加を検討していく。
2	利用者への適切な支援を行うべく、よりいっそうの情報収集、最新情報への更新を行っていく。
3	記録業務の改善を目的とし、記録の電子化を検討していく。

令和2年度事業報告 部門名	計画責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 通所介護給食部門	村井 仁
I	事業概況・実績報告 1 ご利用者に毎日喜んでもらい健康を維持できる栄養バランスの取れた食事提供を行った。新鮮な野菜を使うことで、季節感が楽しめるメニュー作成ができ、また噛む力や飲み込む力が衰えている方にも安心して食事ができる料理提供をすることが出来た。 2 毎月発行の「献立表」でイベント行事や料理の内容を、ご利用者に分かりやすく伝えられるよう見直しを行った。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 1 選択食やお楽しみメニューを取り入れ、利用者の満足度を高める献立づくりを行った。 2 生活相談員・介護職員・看護師等と連携をとり、安全で美味しい食事の提供に努めながら、ご利用者個々の身体状態に合わせ、食材、形態などに対応することを実施した。また禁止食や当日のご利用者の体調等によって食事の変更に対応できるように代替えの食材なども常備するように取り組んだ。 3 食事メニューやおやつのパリエーション化については、検討の余地が残った。 4 一食 20 種類以上の食材を使用した。栄養バランス・ボリュームの点で改善の余地がある。 5 スタッフ全員の技術向上と介護食の知識の習得に努めたことで成長が見られたので、今後も継続してスタッフ全員で業務に取り組んでいく。 6 調理業務に必要な衛生管理、検査等を徹底することで食中毒や感染症の予防に努めた。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 誕生月に1品、メニューリクエスト制を継続し実施した。年間1利用者につき1回実施。 2 季節ごとの行事食の提供を1月に1回以上行った。 3 週に1回以上のお楽しみメニューを取り入れ、季節感を意識しながら食事提供することができた。
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 ご利用者との繋がりや衛生管理を徹底するため、厨房スタッフのユニフォームの購入を実施した。 2 年間食事メニューリストを作成し、当日使用した食材の量・調味料等を細かく記入したことで、料理の盛り付けのバランスや量を把握でき食材ロスを少なくすることができた。来年度もスタッフ全員で意識しながら徹底していく。 3 厨房スタッフ一人一人の技術力向上と衛生管理、食材の在庫管理等に責任を持ち積極的に業務に取り組んだが、現状に満足せず今後も意識しながら取り組んでいく。 4 食材の業者発注開始により、普段行き届かない厨房フロア内の掃除、整理整頓を行ったがまだ不十分な場所があるので早急に取り組めるようにする。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 ご利用者の帰宅送迎の見守りや食事配膳時などでコミュニケーションを取り、食事の味付けなどの感想や献立のバランス・リクエストなど直接の声を聞こうとしたが、コロナ禍で接することが難しいことも多かった。 2 配膳時は食事量、塩分、糖分の調整、食欲のない方への配慮などご利用者一人ひとりへの心配りを行い、食札以外の嗜好なども考慮しながら食事提供に取り組んだ。 3 毎月「給食会議」を実施し、美味しく食べやすいメニューや調理方法について話し合いを行った。行事や季節食について、会議を通し介護職員からも積極的に意見を求めメニューのパリエーション化を図ったが、まだ改善点がみられるので今後も継続していく。 4 誕生日のリクエストメニューを継続し、より細かい嗜好調査を行い記録することができた。

	5 ご利用者の食札及び個別対応表をさらに細かく詳しく記入し、禁止食やアレルギー食の誤配、誤食が起きないように再度徹底していく。
VI	<p>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <p>1 スタッフの料理作りの安定化・負担軽減のため、機器の導入を検討していたが、調理方法やスタッフ全員のスキルアップで対応できるよう努めていく。その上で必要な機器・調理器具に関しては再度購入を検討する。</p> <p>2 市や地域などの研修・講習会等に積極的に参加しその情報をスタッフ全員で共有しながら日々の業務に取り入れ改善していく。</p>
VII	<p>残された課題・評価・反省・その他特記事項</p> <p>1 コロナ禍でご利用者が欠席することも増えている。食材のロスを少なくするようこまめに食材メニューリストに記入し、またコロナ対応によるご利用者の制限やスタッフの急な休みなどにも対応できる体制を整えていく。</p> <p>2 食事メニューやおやつの変種化については栄養士や職員と意見交換を行いながら見直しをし、来年度はより積極的に変種を増やしていく。</p> <p>3 栄養バランス・ボリュームについて、より充実した食事となるよう検討を繰り返し行っていく。</p>

事業報告書

令和2（2020）年度



あったかいが
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福社会

シャローム三育保育園

シャローム三育保育園 令和2年度事業報告

保育指針：「キリスト教の愛を基に

『知育』（考える力）

『徳育』（おもいやる心）

『体育』（けんこうな体）の調和ある発達を目的とした保育をおこないます」

保育目標：「気持ちを素直に表現し、意欲的に生活する子ども」

「思いやりの心を育て、感謝の気持ちを持てる子ども」

「健康な心と体を持ち、最後まで頑張る子ども」

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令など、これまでに経験したことのない事態が起きましたが、園児や職員から感染者を出すことなく1年間事業継続ができたことに感謝しております。年間行事や日々の活動も感染症対策を優先した内容に見直しを行いました。夏祭り、運動会、クリスマス会などの保護者参加の行事については園児のみで行いましたが子どもたちも含め皆で一緒にアイデアを出し合って実施することができました。また、改めて子どもの主体性について学び合い、日々の保育の中で意識を持って取り組むことができました。

在園児数は78/84名からスタートしました。10月から段階的に新入園児の受け入れをしましたが途中退園などがあり最終的には80/84名でした。地域支援事業は一時保育を除き、交流や受け入れを自粛しました。一時保育においても新型コロナの影響で新規の受け入れを制限しながらの実施となりました。

今後の課題として新しい生活様式の中で保護者や地域への情報発信や地域支援の方法について検討していきます。

園長 村上 渉

目次

事業報告書	2
【1】現況報告	4
【2】給食	5
【3】医務	5
【4】防災管理	6
【5】職員研修	7

令和2年度事業報告 部門名	事業報告者：氏名
保育園 保育	小幡 悦子
I	事業概況・実績報告 （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 1 平均入所児童数 79名 2 エアコンの更新（保育園整備中期計画）
II	業務目標の達成に関する報告 （努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） 1 新型コロナウイルス感染拡大予防対策や緊急事態宣言時の対応等、行政からの通達を基に園の状況に合わせた対応を行った。 2 行事の大幅な変更を強いられる中、保護者への発信方法などの対応が遅れた。
III	事業数値目標の達成に関する報告 （達成率・達成数値） 1 園児数の確保：入所児童枠84名に対し平均79名。達成率 94%。 2 一時保育事業：年間目標延べ450名に対し317名。達成率 70%。
IV	業務の改善・見直し （改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 園内研修の年間テーマを『対話』として年間計画を立てていたが、コロナの影響で前期は内容の大幅な変更や中止せざるを得なかった。後期は小グループでのグループディスカッションを取り入れ「対話」や「主体性」について共通理解と意識付けにつなげることが出来た。 2 緊急事態宣言発令による登園自粛等もあり、職員の働き方に大きな影響があった。自宅待機中は課題を出すなど待機時間を有効に使えるように努めた。 3 救急対応について園内研修の中で行ったが、実践を見据えての訓練としては不十分であった。今後は具体的なシミュレーションを取り入れていきたい。
V	業務の強化・向上 （強化・向上したこと） 1 子どもの主体性について園内研修等で職員間の共通理解を深められるように努めたことで、日々の保育に子どもが主体的にかかわれる環境設定を意識することが出来た。特に行事では、物的・人的共に環境設定をすることで子どもが主体的に関わる姿が多く見られた。 2 専門性の向上を図るために保育指針に基づいた自己チェックシートを活用し、前期はグループディスカッション、後期は園長・主任との三者面談で振り返りを行ったことで個人の課題を明らかにしてその後の保育に繋げていくことが出来た。また、人権擁護のチェックシートを園内研修に取り入れることで「子どもを尊重する保育」を意識することが出来た。
VI	業務の新たな試み （昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 熱中症対策として環境省の熱中症環境保健マニュアルをもとに園外活動の判断を行うことで、安全管理を行うことができた。また、判断基準を乳児・幼児で分けることで遊びの充実を図ることが出来た。 2 保護者からの集金システムを現金回収から口座振替に変更したことで、保護者の負担が軽減され業務効率化も図ることが出来た。

VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 1 子どもの主体性についての職員間の共通理解は引き続き 園内研修・会議等を利用して深めていく必要がある。 2 外部研修受講後のフィードバックが不十分であり、実践からの振り返りの体制を整える必要がある。 3 会議の時間を有効に使うために各会議の在り方の見直しを行う必要がある。 4 コロナ禍での行事等の見直しを行うとともに 保護者支援の充実にも目を向け検討していく必要がある。
-----	--

令和2年度事業報告 部門名	事業報告者：氏名
保育園 給食	勝谷 広志
I	事業概況・実績報告 <ul style="list-style-type: none"> ・経験の浅い職員もいたが積極的に調理の参加などを行い技術の向上などに努めた。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） <ul style="list-style-type: none"> ・乳児クラスの残食は後期になると減少したが、年間を通すと前年度よりも多かった。幼児クラスも前年度より残食が多かった。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） <ul style="list-style-type: none"> ・昼食時残食量 1日あたり目標値：乳児 0.5 k g 以内 達成率 60.1% 幼児 0.5 k g 以内 82.9% ・栄養設置基準値により近い献立作り：献立栄養量との誤差5%以内を目標にしていたが全体的に上回ることが多かった。ただし献立上の数値は上回ったが残食などを考慮すると概ね達成できたと考えられる。
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） <ul style="list-style-type: none"> ・今年度食育計画の見直しを行っていたが、新型コロナウイルスの影響で計画通りに進まなかったが感染症対策を行いながら出来る範囲で取り組むことができた。 ・研修については延期や中止で参加が難しい状況だったが、リモートで参加できる研修を受講し知識の向上に努めた。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） <ul style="list-style-type: none"> ・衛生点検表などを使用し各自の衛生管理の意識を高めた。 ・誤食事故の発生は無かった。チェック体制を強化して誤食事故を防ぐことができた。
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） <ul style="list-style-type: none"> ・月1回程度の新しいレシピを取り入れた。 ・保護者におすすめレシピを配布した。 ・シフトの異なる職員間で情報共有できるように、給食部門内のミーティングを実施した。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・乳児クラスの食育については今後取り組めるようにしたい。 ・献立の見直しを行い、楽しくて美味しい給食を提供することで、残食量を減らし献立栄養量を栄養設置基準値により近づけるようにする。

【1】現況報告

① 入所児童

(令和3年3月31日付け)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	9/6	12/12	15/13	48/39			84/70
現員	9	11	15	16	14	15	80

② 一時保育事業延利用児童数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延利用児童数	21	17	27	24	15	16	27	32	33	32	29	44	317

③ 行事の状況

実施日	行事名	実施日	行事名
4月1日	入園式	10月16日～ 11月23日	保育参観（クラス毎に開催）
5月15日	内科健診	11月4日～ 27日	個人面談
5月29日	お弁当持ち散歩	11月16日	さつまいも堀り
6月5日	保育参観・懇談会⇒中止	11月26日	歯科健診
6月15日	じゃが芋堀り⇒収穫模擬体験	12月24日	クリスマス会⇒縮小（保護者の参加無・日程変更）
6月25日	歯科健診	1月5日	もちつき
7月8日	さかなのつかみ取り⇒縮小	2月1日	節分祭
7月17日	夏祭り⇒縮小（保護者の参加無）	2月24日	じゃが芋植え
6月15日	プール開き⇒中止（プール活動自体の中止）	3月5日	卒園遠足
8月	シャローム横浜おやつピザ⇒中止	3月13日	入園説明会
10月2日	運動会⇒縮小（保護者の参加無・日程変更）	3月15日	お別れ会
10月16日	内科健診	3月18日	卒園式
10月30日	お弁当持ち散歩	3月31日	進級式

《地域交流と支援》

- ・ 地域支援：「えいごで遊ぼう」「園庭解放」毎月第3木曜日（中止）
- ・ 地域交流：せやっこ祭り 11月7日（パネル参加）
- ・ 多世代交流：中止
- ・ 幼保小交流：学校探検（DVD）、球根植え（縮小）
- ・ 他保育園との交流会：中止
- ・ 療育センター巡回訪問：年2回
- ・ 読み聞かせボランティア受け入れ：中止
- ・ 防災ボランティア活動支援：中止
- ・ せやまる・ふれあい館合同避難訓練：3月4日（机上訓練）
- ・ 合同育児講座：1月25日（おすすめレシピ提供）

- ・ 職業体験：受け入れ自粛
- ・ 実習生：看護大学 12 名、専門学校生 6 名

【2】給食

① 食育計画 【栄養講話】 対象：3～5歳児

実施日	内容	備考(媒体)
4月21日	三角食べについて	
5月12日	食事のマナー「正しい姿勢で食べよう」	クイズ形式 ポスター
5月26日	手洗いの大切さ	正しい手洗い方法を歌いながら学ぶ
6月2日	「歯を大切にしよう」虫歯ができる理由・歯を磨く大切さ	
6月16日	何からできてるかな(加工食品について)	竹輪→魚 チーズ→牛乳 ハム→肉 など
6月30日	噛むこと大切さ	
7月7日	夏野菜について	クイズ形式
9月1日	秋の食べ物について	クイズ形式
9月15日	箸の持ち方について	ポスター
10月6日	三角食べについて	
11月16日	さつまいもについて	収穫したさつまいもについて
11月24日	冬の味覚について	クイズ形式
12月1日	食事のマナー、正しい姿勢で食べよう	
12月15日	冬至について	クイズ形式 ポスター
1月7日	七草粥について	七草の展示
2月2日	節分について	
2月16日	手洗いの大切さ	正しい手洗い方法を歌いながら学ぶ
3月2日	春の食べ物について	
3月16日	いただきます・ごちそうさまについて	

【3】医務

① 健康診断

実施日	対象人数	実施人数	診断項目	異常の有無
(1回目)7月3日	80人	72人	内科	無
(2回目)10月16日	81人	76人	内科	無

実施人数と対象人数が異なるがその理由を確認し(病的、私的欠席)、経過を追った。

② 歯科健診

実施日	対象人数	実施人数
6月25日	80人	66人
11月26日	81人	77人

【4】防 災 管 理

① 消防設備点検

消防設備点検(実施・届出)	令和2年6月1日(1回目)実施
	令和2年12月6日(2回目)実施
防火対象物点検(実施・届出)	令和2年12月6日実施

② 防災対策備蓄

備蓄物	備蓄数量	備蓄物	備蓄数量	備蓄物	備蓄数量
ガーゼ	20束	エマージェンシーシート	2枚	おむつビック	54枚×9
グローブ	1000枚	手作り包帯	約50本	おむつ超ビック兼用	14枚×1
消毒液・オキシドール	9本・ 500ml×2	おむつS	84枚×1	おしりナップ	10個×3
サージカルテープ	12巻×2	おむつM	64枚×2	鍋	1個
バンドエイド	9箱	おむつM	58枚×3	ガスコンロ	1台
コットン	3パック	おむつL	64枚×6	カセットガス	3本
ウエットティッシュ	2箱	水(20)	144本	ハロゲン灯器具	1台
哺乳瓶	9本	白がゆ・白飯	50・150	手動充電器	2台
哺乳瓶乳首	4個	ミルク	10缶	着火マン	2個
使い捨て手袋	100枚×3	クラッカー(70食)	4缶	懐中電灯・電池	2セット
ビニール袋(大小)	550枚	携帯トイレ	30回分	ラジオ	1台
紙ナプキン	150枚	ペーパータオル	25袋	タオル	1箱
ジャグ	2台	トイレットペーパー	36巻	発電機	1台
ラップ	1本	ティッシュ	12箱	ガソリン	30L
コップ	350個	着替え上下120/140	30枚	皮手袋・軍手	12組・22組
箸・スプーン	60膳・30個	マスク(大小)	1000枚	工具類	一式
紙皿(大中小)	163枚	簡易トイレ	2台	スケッチブック	3冊
ハンドミスト	4L×2 750ml×5	けんちん汁(3kg)	6缶	ガムテープ	2巻
クリップ大小	8個	EMG・ブランケット	57枚	スズランテープ	2巻
おんぶ紐	8本	靴	17足	はさみ	2本
トランシーバー	2台				

③ 避難及び消火訓練

(実施内容に○印)

実施内容	想 定			訓 練	
	地震	火災	その他	避難	消火訓練
実施月日					
令和2年4月15日	○			○	○
令和2年5月14日		○		○	○
令和2年6月17日			○(浸水)	○	○
令和2年7月15日		○		○	○
令和2年8月12日	○			○	○
令和2年9月16日			○(台風)	○	○
令和2年10月14日		○		○	○

令和2年11月11日			○(竜巻)	○	○
令和2年12月7日			○(不審者)	○	
令和2年12月9日	○	○		○	○
令和3年1月13日			○		○
令和3年2月10日	○			○	○
令和3年3月4 せやまるふれあい館 合同訓練(机上訓練)		○		○	○

【5】職員研修

① 園外研修

氏名	年間のねらい	① 研修名	② 研修名
		主催	主催
		研修日	研修日
園長	人材の確保と育成。施設環境の整備。重大事故発生0.	「保育が楽しくなる」往還型ドキュメンテーション研修	危機管理研修
		ルクミー	瀬谷区保育・教育施設長会
		11/28・12/16・1/20・2/10	10/29
小幡悦子	感染症の長期化に伴う保育現場全体のケア。現状にあった園内研修の充実	「With コロナ時代に求められる保育の質向上と園のマネジメント」	『よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～』
		ルクミー	こども青少年局
		7/14	9/24
大原仁子	口座振替に関する作業手順を確認する。支払い計画のある人の請求、入金と会計処理を正しく紐づける。保護者と明るいコミュニケーションを心掛ける。	社会福祉法人会計基準対応研修/基礎編	社会福祉法人会計基準対応研修/応用編
		ウィリング横浜	ウィリング横浜
		9/24～25	11/12～13
岡田ちとせ	感染症対策の徹底。園内保健講習の充実	感染症対策指導者養成研修会	
		瀬谷福祉保健センター福祉保健課	
		9/30	
下村英里	個々の発達や興味を引き出し伸ばせるような環境設定や関わり。昨年度の改善点を活かしより良い0歳児保育が出来るようにしていく。意見を伝えあったり 共通の認識をもっていけるようなチームワークを持てるよう 考えたり行動する。	神奈川県保育士エキスパート等研修『食育・アレルギー対応』	
		神奈川県福祉こども未来局	
		11/12～11/20内12時間・11/27	

鈴木香	昨年度から持ち上がりでクラス担任になり 成長と共に動きも活発になってきた子供たち。自分自身の体調管理をしっかり行い 子どもたちの安全と健やかな成長を守りながら毎日含意に子どもたちを過ごす	救命救急・防災対策研修	
		瀬谷区こども家庭支援課	
		9/14	
金子武人	子どもたちに寄り添い 一人一人の思いを汲み取りすすめていけるようにしっかりと連携を取りながらクラス運営を行っていききたい。また 副主任として園全体の動きや課題にもしっかりと対応できるようにし 自分から動けるようにしていきたい。	神奈川県保育エキスパート等研修：マネジメント	保育実習指導者研修
		ポピンズ	横浜市こども青少年局
		2/11～2/25 内 12 時間・2/26	12/16
佐藤千穂	一人ひとりの主体性と意欲を尊重して保育する	神奈川県保育エキスパート等研修『保健衛生・安全対策』（	
		神奈川県福祉こども未来局	
		11/1～15 内 12 時間・11/16	
木原有紀	家庭支援施設 保育士間で情報を共有し個人差に対応したよりよい支援が行えるよう努めたい	こぱんはうすさくら横浜瀬谷教室の見学	
		こぱんはうすさくら横浜瀬谷教室	
		6/11	
青木彩花	幼児組の保育を理解し 子どもの生活や発達の連続性を大切にしたい保育の展開。幼児副主任として他職員の思いに寄り添いながら業務をこなす。	「4.5 歳児保育研修」	神奈川県保育エキスパート等研修：子育て支援
		白峰学園保育センター	ポピンズ
		11/27・2/18	: 10/25～11/8 内 12 時間・11/9
		幼保小接続期研修会「保育・教育の質向上」	
		こども青少年局 映像配信期間 10/19～12/18	
脇本瑛梨香	子どもの成長を見守る	産休のため受講無	
吉田成美	乳児との関わりを楽しみに個人対応を大切にする。サポートできるように頑張る	絵本で保育がもっと広がる！～月間絵本・保育雑誌の活用～	
		ルクミー	
		1/7 オンライン	

知久 ゆり	2歳児の保育の仕方などを学ぶ。保育士などと連携した保育をする	神奈川県保育エキスパート等研修：乳児保育
		ポピンズ
		10/6～10/9内12時間・10/20
嶋村 千恵 子	フリーの動きを知り いろいろなクラスの子を覚える。年齢にあった保育を心掛ける	神奈川県保育エキスパート等研修：マネジメント
		ポピンズ
		2/12～2/26内12時間・2/27
大平 望	一人一人の気持ちに寄り添い 余裕をもった保育をする。その都度的確な判断をし チーム保育を心掛ける	障害児保育を考える～保育のユニバーサルデザイン化 を目指して
		こども青少年局
		12/17
池部 桃子	子どもの成長する日頃の姿をちゃんと捉えてその子にあった関りをする	救命救急・防災対策研修
		瀬谷区こども家庭支援課
		9/18
川原 邦之	法人や保育園の理念・方針を正しく理解し 行動していく	インクルージョン保育を考える ～クラス運営を中心に～
		横浜市こども青少年局
		12/2
平井 菜緒	保育内容を詰め込みすぎず子どものペースに合わせた保育プランを立てる。保護者とコミュニケーションをとり 少しでも早く安心して預けてもらえるようにする。幼児職員（特に）との対話を大事にして風通しの良い雰囲気を作る。	神奈川県保育エキスパート等研修『幼児教育』
		神奈川県福祉こども未来局
		10/11/9内12時間・11/10
松下 彩	少ない勤務日数でどれだけ子どもたちに寄り添い 気持ちを受け止められるか。子どもたちからの（したい）（してほしい）サインを見逃さない。	絵本で保育がもっと広がる！～月間で絵本・保育雑誌の活用～
		ルクミー
		1/7 オンライン
瀬谷 留美	安心できる環境の中で子どもたちの発見や遊びの広がり大切に。担任間で連携を大切にし 個々の発達に応じ自発性を伸ばす関りが出来るように努める	救命救急・防災対策研修
		瀬谷区こども家庭支援課
		9/7
横森 房枝	保育の質を意識した仕事をする。身体（精神）をコントロールしながら仕事をしていく。	保育所における感染症の基礎知識～新型コロナウイルス感染症への対応
		日本保育協会
		1/18 オンライン

松本美奈子	日々の保育が円滑に進むように先生方と連携をとり 情報を共有する。保育中の声の大きさ、言葉遣いに気を付ける。感染症対策をより一層意識して過ごす。	世界一わくわくする子どもの育ち
		ルクミー
		1/6 オンライン
宮本博子	子どもの人格を尊重しながら安全に過ごせるようにしていきたい。今年度もフリーという立場で担任の n 先生の手助けになるよう 保育をしていきたい。コロナウイルスという目に見えない敵に気をつけながら子ども 自分自身も気をつけて保育していきたい。	リスクマネジメント研修
		横浜市こども青少年局
		12/14
佐藤百合子	こども一人一人の心理に合わせた保育	リスクマネジメント研修
		横浜市こども青少年局
		1/19 オンライン
宮原恵子	子どもたちが自分で考え行動できるような言葉掛けや子どもが納得できるまで持てる広い心を持つようにする	保育をどうしようみらい会議『コロナだから』ではなく～今こそ求められる保育のあり方/人とのつながり
		ルクミー
		1/7 オンライン
加藤京子	安心安全な保育	保育所における感染症の基礎知識～新型コロナウイルス感染症への対応
		日本保育協会
		1/5 オンライン
富山彩加	清潔で安全な保育を行う。子どもたちにけがや危険がないような様々な予測をして保育をする	保育所における感染症の基礎知識
		日本保育協会
		2/3
勝谷広志	新しい生活様式に沿った食育活動の充実。衛生管理の徹底。誤食0.	衛生管理講習会
		横浜市こども青少年局
		11/12
熊倉和可子	栄養業務を覚えたい。食育などで保育に入りたい。	保育所における食物アレルギーの現状
		横浜市こども青少年局
		12/25
松原亜里沙	主菜 副菜の調理法を学ぶ	保育所における感染症の基礎知識
		日本保育協会
		2/9

一条 彩香	色々な果物の切り方を覚える。 ただ切るのではなく食べる子どもたちを思いながら盛り付けをする	保育所における感染症の基礎知識
		日本保育協会
		2/16
大場 真理 子	一つ一つの仕事を手際よく丁寧に進めていく	保育所における感染症の基礎知識
		日本保育協会
		2/15

② 園内研修

園内研修 年間のねらい『対話』

実施年月日	内容（担当職員）
4月	アイスブレイク⇒中止
5月	救命救急（消防署指導）⇒10月に延期
5月	除去食・エピペン（講習・マニュアル確認）⇒7月に延期
6月	グループディスカッション⇒内容変更『自宅研修として絵本の紹介』
7月31日	防災（防災係）
7月午睡時	エピペン講習（看護師）
8月28日	グループディスカッション「子どもの姿を語り合う」（主任）
9月25日	自己評価（主任）
10月	防災⇒11月に延期
10月30日	けがの手当て・救命救急（5月予定分 看護師講習に変更）、緊急時の対応（1月予定分）・『よこはま☆保育・教育宣言』冊子黙読
11月27日	グループディスカッション⇒防災（10月予定分）（防災係）・動画視聴『フレネ自由教室』（主任）
12月午睡時	嘔吐処理（看護師）
1月	緊急時の対応⇒10月に変更
2月	自己評価（園長・主任との三者面談にて活用）
2月26日	グループディスカッション『リズムあそびについて』（主任）
3月14日	① 理念・保育方針・権利擁護・職業倫理・個人情報保護・苦情対応・事故対応・他マニュアルより（園長・主任） ② 防災（防災係）
3月26日	グループディスカッション『幼児クラスの新年度準備』（副主任）
年間を通して	「〇〇先生の良いところ」（副主任）

事業報告書

令和2（2020）年度



社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

放課後等デイサービス ベーテルの夢

放課後等デイサービス ベーテルの夢 II

2020年度 放課後等デイサービス ベートルの夢、ベートルの夢Ⅱ事業報告

包括的な社会福祉事業の展開を目指すため、2019年5月にスタートした障害者福祉事業「放課後等デイサービス・ベートルの夢」もようやく事業の安定が見えて参りました。2020年5月には2つめの事業所、「放課後等デイサービス・ベートルの夢Ⅱ」を同地域に開所致しましたが、これは先にスタートしたベートルの夢が子どもたちはもちろん、保護者や地域、行政等から一定の評価を得ることができた故であると理解しています。

しかし、2020年度はコロナ禍の影響を受けたことにより、ベートルの夢、ベートルの夢Ⅱ（以下、沖縄事業）共に混乱の中での業務を強いられました。特に子どもたちが所属する対象地域の小学校の状況や、児童の関係者に感染者が出た時の緊急対応は職員の心身に過度な負担をかけることになりましたが、地域を含む同業他社との連携や情報共有等を通して必要な支援を継続することができました。

ベートルの夢、ベートルの夢Ⅱに関する具体的な課題については、2つの事業所の違いが顕著でした。ベートルの夢は“どんな子どもも断らない”という使命感から、相談を受けた子どものほとんどすべてを受け入れてきました。このことによって定員以上の利用児童を常に確保できましたが、同時に送迎範囲の拡大や手間とそれに対応する人手が必要になり、収支のバランスに影響が出ております。

ベートルの夢Ⅱは、先々の運営に影響を及ぼすことなく最少人数で安定した事業を継続するため、送迎範囲の拡大を極力避け、職員のスキルに合わせて利用児童の受け入れを行って参りました。その結果、職員の数是最小限に抑えておりますが、利用児童を満たしておらず、安定した収入を得るのに時間がかかっています。

このように各事業所の特徴と課題を法人事務局が中心になって分析し、コミュニケーションを図りながら継続して収支の安定に向けて取り組んで参りました。

沖縄事業においては法人の設立母体であるセブンスデー・アドベンチスト教団とその関連機関との連携は子どもたちにとって大きな意味を持っています。特に当法人の関係教育機関との多くの生きた体験を通して利用児童の心に“人に対する安心感”を残すことができたことは真に感謝すべきことであり、今後もこの関係性を保ちながら事業の発展を目指して参りたいと思います。

沖縄事業 村本英邦

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ベーターの夢	福地 十七重
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 利用児人数（登録者数:18名、月平均実績数:199名、年間延べ実績数:2390名） 2 利用児平均稼働率 95%（前年度比316%） 3 スタッフの育成とモチベーション向上を図る為、朝礼にて祈りと証の読み物を瞑想し、又、初任者向けの聖書研究を近隣の牧師に依頼し月1度実施した。よって、法人理念の「いのち」と向き合い寄り添うことのできる土台作りを築くことが出来た。児童を対象とする「いのち」に寄り添う働きとしては、日々の支援はもとより、特別にクリスマスイベントとしてスタッフによる降誕劇を催した。これらの年間の支援と育成を通して、「いのちを敬う」こと「いのちを愛する」こと「いのちに仕える」ことをスタッフと児童の心に育むことが出来た。今後も継続して祈りと学びとを実践して参りたいと思う。
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 利用児の家庭環境や置かれている状況を把握・共有することで、安心できる環境づくりに努力した。 2 それぞれの特性にあった個別の対応を行うために、大切なかけがえのない「いのち」であることを伝えながら認められること受け入れられることの喜びを感じてもらえるように丁寧な寄り添う努力をした。 3 利用児を取り巻く環境の中で人間関係におけるコミュニケーション能力や非認知能力を高める為、遊びの中から一緒に学べるよう配慮・支援した。
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 利用児の確保： 1日平均利用人数（9名／10名定員）目標の10名は未達成である。 2 未就学児の確保：1日利用定員を満たしているため、未就学児の確保に至らなかった。 3 事業所登録児数：登録児数18名で目標達成した。
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 感染症予防策を強化し、日々の手洗い・うがい・手指消毒等を習慣づけるよう心掛けた。事業所内において感染症予防の勉強会で学びを深めた。保護者向けにコロナウイルス感染症予防の資料を配布し、家庭においても一緒に予防対策に取り組めるよう連携を図った。よって保護者の理解・協力を得て、定期的な施設内消毒を行うことができた。（5月、8月、3月実施） 2 安全管理マニュアルの整備を行い、避難訓練（2月）・卓上訓練（7月）を行った。送迎に関する勉強会を行い安全・安心を心掛けた。 3 送迎を安全に行えるように増車したが、効率的な送迎を行えるよう連携を図ることが難しく課題となった。 4 支援の中で起こるヒヤリハットを記録し、日々の支援者会議内において共有することにより、スタッフの危機管理意識の向上を図ることができた。

V	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自治会会員として広場を提供してもらいあそび場の確保ができた。社協や行政機関との連携を図ることで、コロナ禍における自治体行事への参加やマスク贈呈、地域食堂からの無償弁当の配布を受ける等、積極的な関係構築が出来た。 2 保護者とは担当者会議・モニタリングに加えて、日々の送迎時やメールにおいて利用児の様子や状態の把握を密に行い信頼関係を築いた。必要に応じて随時面談を行い、進級に向けては希望者全員と個別相談を行った。よって1年間の振り返りや課題の共有を図り保護者の思いを知ることが出来た。今後も継続し信頼関係の構築に努めていく。
VI	<p>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 令和2年5月1日、沖縄県浦添市前田に「ベーテルの夢Ⅱ」新規事業所を開設した。 2 浦添市社会福祉協議会より支援員ボランティア・こどもボランティア・大学生のボランティア実習等を受け入れ活動や支援の充実を図った。 3 コロナ禍において療育活動への直接的な参画は難しかったが、各自治会からの呼びかけにはできるだけ応じ、新聞記事に取り上げられる等「ベーテルの夢」の周知を図った。浦添市の補助金を受けた専門的支援者向け活動「すなばの会」や「障がいのある子どもの放課後保障連絡会沖縄」の事務局を務め、積極的に学び、スタッフの資質向上と多職種（保育、教育、医療、福祉等）支援者同士の結びつきを強めた。
VII	<p>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人数超過している曜日において、利用日の調整を保護者や利用児の気持ちや状況を十分に配慮し提案していくようにする。 2 保育所等訪問支援の希望者、新規問い合わせ、待機児童が多くいる。しかし、受け入れられる枠や、マンパワーの確保が不十分の為、受入れ出来ない状況が続いた。他事業所との連携を図り、利用児と保護者のニーズを満たせるようにスポット利用のサービスを提供していく。 3 スタッフの送迎の負担を減らしていけるよう、送迎車や送迎専属スタッフの確保、ルートの工夫、迎えの時間を密に伝えあうことで学校との連携を図るようにする。 4 コロナ禍において保護者会（ベーテル café）の開催が難しかった。感染症予防に努め保護者支援の一環として再開したい。

【事業実績報告】 3月末現在

- 1 ①利用定員 10名
 ②利用契約者数 18名
 ③待機登録者数 16名
 ④職員人数（嘱託・パート・アルバイト含む） 計 9名
 管理者 兼 児童発達支援管理責任者：1名 児童指導員：2名 作業療法士：1名
 保育士：1名 指導員：2名 アルバイト：2名

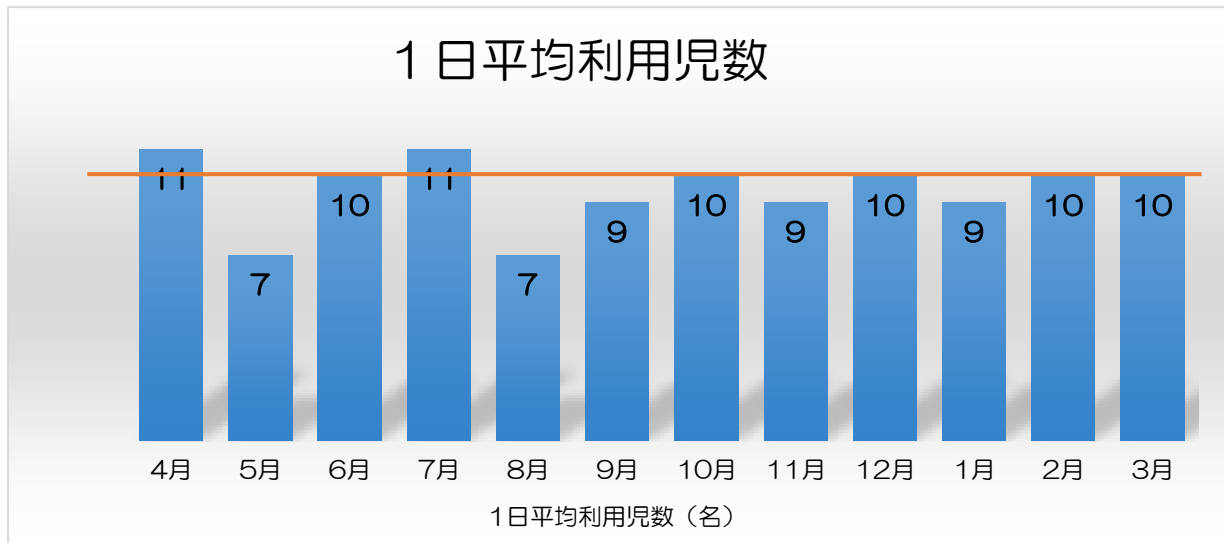
2 利用児実績人数（名） ◎特例措置により利用自粛の際の出席扱いを含む

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	平均
231	156	215	229	152	185	209	197	204	195	201	216	2390	199.2

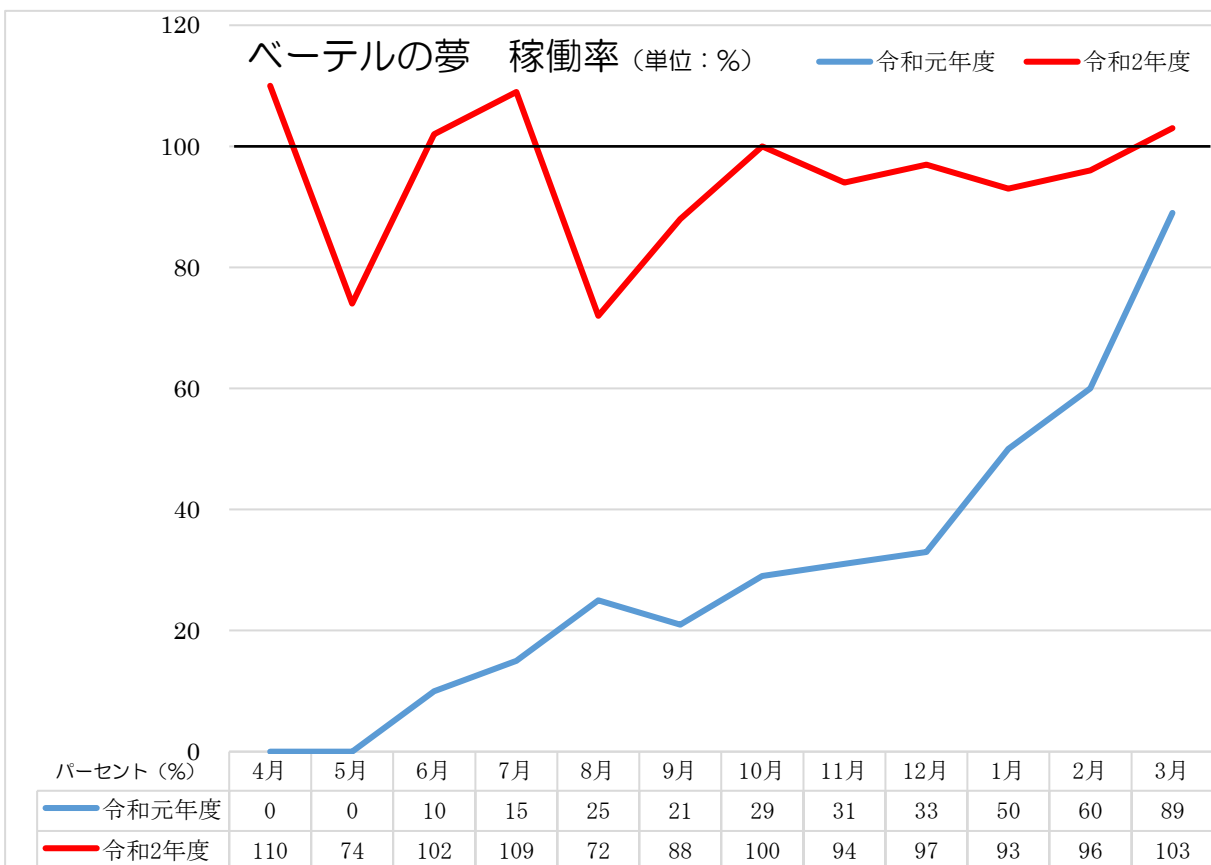
※4月（新規事業所開設の為定員超過）5月、6月、8月（緊急事態宣言発出中）10月（濃厚接触者在）

3 1日平均利用児数（名）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
11	7	10	11	7	9	10	9	10	9	10	10	9.4名



4 利用児稼働率（平均稼働率95% 前年度比316%）



5 職員研修

日時	主催	内容	参加者
5月	事業所内	職員研修 事業計画読み合わせ	緑間、楚南、松田、福地、池原、緑間

6月	すなばの会	「新型コロナウイルスのある世界で子どもと関わること」	福地
7月	事業所内	障がい児虐待防止研修 身体拘束防止研修	松田、村本、楚南、緑間、福地
	すなばの会	「子どもの心対応ブック活用法」学習会	福地
8月	事業所内	コロナウイルス感染症予防研修	松田、村本、楚南、緑間、福地、久保田
	すなばの会	「行事を楽しむための事例検討会」	福地
9月	障がいのある子どもの放課後保障連絡会沖縄	「乳幼児期からつながる、学童期、思春期の発達、つまづき、支え方」	村本、楚南、緑間、福地
	りたりこ発達ナビ	減算リスクを回避した安定した事業運営をしていく為の実地指導対策とは？	福地
	すなばの会	「認めることの大切さ」事例検討	福地
10月	事業所内	送迎業務に関する研修会	松田、村本、緑間、福地、久保田
	すなばの会	「学校に来てほしいな」事例検討	福地
11月	特定非営利活動法人 べあ・さぼーと	強度行動障害支援者養成研修課程（基礎研修） 行動援護従業者養成研修課程（前期分）	緑間
	すなばの会	「気になる子が行くところみーつけた」事例検討	福地
12月	事業所内	救急蘇生法（AED）	松田、久保田、上間、村本、緑間、福地
	すなばの会	「集団行動が苦手な子への支援」事例検討	福地
1月	障がいのある子どもの放課後保障連絡会沖縄	「ゆうやけ子どもクラブ！」ドキュメンタリー映画研修	松田、久保田、上間、村本、楚南、緑間、福地
2月	沖縄県特定非営利活動法人わくわくの会	かかりつけ医等発達障害対応力向上研修事業	松田、村本、福地
	すなばの会	「暴言・手が出る子への支援」事例検討	福地
3月	障がいのある子どもの放課後保障連絡会沖縄	児童発達支援管理責任者の役割 ～支援ネットワークの構築について～	松田、村本、上間、福地
	すなばの会	「学校から発信！子どものための環境づくり」	福地
	浦添市	「ピアラルうらそえ」記念シンポジウム	福地

※「すなばの会」：浦添市の補助事業である発達障がい児者支援者の為の学習会、事例検討会

6 会議・モニタリング・面談等・その他（回数）

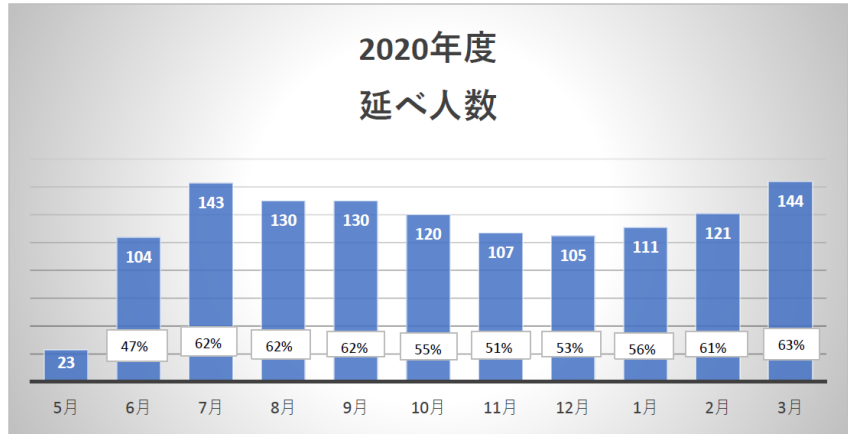
担当会議	モニタリング	保護者会（ベテラル café） 面談等	放課後連沖縄 事務局会議	要保護児童対策 地域協議会・他
28回	39回	25回	12回	4回

※「障がいのある子どもの放課後保障連絡会沖縄（放課後連沖縄）」：障がいのある子どもの健やかな発達と地域生活の保障をする為の、交流・調査・研究・要望活動等を行う連絡会

令和2年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ベーテルの夢Ⅱ	福地 泉
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ベーテルの夢Ⅱは、令和2年5月に開所したが、コロナ禍の為、児童の受け入れは5月末からの開始となった。 2 那覇・浦添市の感染状況は常に増加し、児童の募集は思うように進まなかった。 3 利用児童の半数は要保護児童であり、利用の増加を目指す一方で、家庭に生活問題を抱えた要保護児童が常に存在し、稼働率は横ばいの結果となった。 4 令和3年1月、「リタリコ発達ナビ」の活用を検討し、2月に加配加算申請を行った。 5 関係機関連携加算や家庭連携加算を積極的に算定し、質の向上と利益の増加を目指した。 6 朝礼とミーティングを欠かさず行うことで、理念に基づく事業方針と価値観の共有を図り、療育実践の確認と療育目的を常に確認することができた。
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童の全人的受容体験を目指し、支援者自身が「ありのまま受け入れられている」ことの安心と実感を経験するために、朝礼において法人理念の根拠となる聖書を学んだ。 また、利用児童に対して毎日の「帰りの会」を実施して聖書に触れる機会をもった。 2 児童の可能性（強み）、ニーズ、現状、課題を検討し個別計画書を基に療育をすすめた。 3 職員との関係性を深めることで、児童が安心して自分自身を表現できるようになった。
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一日平均利用児童6.5名 稼働率：平均65% 別紙グラフ参照 2 療育の質を検討し、年齢範囲の策定を行った為、未就学児の確保には至らなかった。 3 3月現在の利用児童登録数：11名。
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 標準予防策の徹底や補助金を活用して環境整備を行い、感染対策を行った。 2 安心・安全の確保に向けて、避難訓練・消防訓練を2回/年行った。 3 療育の質と運用を考慮し、適切な送迎範囲を策定して児童募集を行った。 3 コロナ禍の状況をみながら、相談事業所への直接訪問を行うなどのリスク管理を行った。

<p>V</p>	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <p>1 地域、関係各機関との関係構築を目指す</p> <p>① 小学生・高校生によるボランティア活動を導入することで、ボランティアをする側とされる側の双方に良い影響を与えた。 （高校生ボランティア25人・小学生ボランティア5人）</p> <p>② 関係機関であるアドベンチストメディカルセンター歯科指導・沖縄三育小・沖縄三育中学校の教員によるベータルの夢Ⅱの訪問支援の実施ができた。</p> <p>③ 教育委員会や社協と連携し、情報交換を行った。 （文化ボランティア・学生ボランティアの紹介と社協の来年度行事の共同参加の検討）</p> <p>④ 児童館との交流で健常児と障害児と一緒に遊ぶ環境をつくり、地域との繋がりを深めた。</p> <p>2 保護者の信頼関係</p> <p>① 連絡帳・送迎時のコミュニケーション・担当者会議・モニタリング会議・家庭連携などの自宅訪問を実施した。「親の会」についてはコロナ禍の影響で実施できなかったが、個々の保護者にベータルラインを通して日々の様子を発信し、電話を通じて児童の相談をはじめ、コミュニケーションを図った。</p> <p>3 職員の学びを強化することで、支援の充実を図った。</p> <p>① 強度行動障害研修（1人）実践研修と基礎研修終了</p> <p>② 研修/全国放課後連盟/沖縄放課後連盟 ZOOM 研修（年3回）</p> <p>③ 心理士・運動療法士によるスタッフ勉強会開催（年5回）</p>
<p>VI</p>	<p>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <p>1 「リタリコ発達ナビ」を導入して、療育内容の組み立てを行った。また加算を取得するために適切な人材配置を行い、加配加算申請とその他の加算習得を目指した。</p> <p>2 送迎ボランティアの更なる導入と文化活動ボランティアの導入を行う。</p> <p>3 国際人材交流センター（JAICA）と連携し、異文化交流と地域のつながりをつくった。</p> <p>4 来年度より心理士講師による WISC 知能検査の導入を行う。 （児童の現状把握とスタッフ勉強会の実施、療育実践の根拠を確認し療育に反映する。）</p> <p>5 スクールソーシャルワーカー業務の正式な提携（沖縄三育小学校・沖縄三育中学校＜アドベンチスト機関＞）を行う。</p>
<p>VII</p>	<p>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</p> <p>1 近隣の浦添小・前田小の児童を確保することにより、通所児童10人を目指して、稼働率の向上と安定を目指す。</p> <p>2 感染症マニュアル策定や BCP マニュアルを作成し、実施する。</p> <p>3 適正な人員配置などを行い、勤務時間超過を軽減する。</p> <p>4 「リタリコ発達ナビ」の ZOOM 研修をパート職員にも行うことで、職員全体の資質向上を目指す。</p> <p>5 「リタリコ発達ナビ」への定期的なブログ配信を目指す。</p>

月	2020年度 延べ人数	稼働率
5月	23	
6月	104	47%
7月	143	62%
8月	130	62%
9月	130	62%
10月	120	55%
11月	107	51%
12月	105	53%
1月	111	56%
2月	121	61%
3月	144	63%



月	2020年度 保険請求額
5月	204735
6月	860550
7月	1116225
8月	1071931
9月	1021311
10月	921735
11月	852954
12月	811638
1月	850192
2月	945782
3月	1513356

